

※本総目次はJSPS科研費JP22K00338の助成を受けたものです。

書名	編者・監修者		出版社	発行年/月/日
作品名	分類	作者（翻訳者）	備考1	備考2
現代日本文学全集 第62篇：プロレタリア文学集			改造社	1932/02/15
「プロレタリア文学集」の序に	序文	江口渙		
都会双曲線	小説	林房雄		
鉄窓の花	小説	林房雄		
年譜	年譜	林房雄		
不在地主	小説	小林多喜二		
救援ニュースNo. 18, 附録	小説	小林多喜二		
「市民のために！」	小説	小林多喜二		
蟹工船	小説	小林多喜二		
年譜	年譜	小林多喜二		
暴力	小説	武田麟太郎		
荒つばい村	小説	武田麟太郎		
休む軌道	小説	武田麟太郎		
色彩	小説	武田麟太郎		
反逆の呂律	小説	武田麟太郎		
年譜	年譜	武田麟太郎		
生活の旗	小説	藤澤桓夫		
傷だらけの歌	小説	藤澤桓夫		
赤ん坊の話	小説	藤澤桓夫		
農村では	小説	藤澤桓夫		
墓地で体操をする男	小説	藤澤桓夫		
琉球の武器	小説	藤澤桓夫		
子供	小説	藤澤桓夫		
年譜	年譜	藤澤桓夫		
暴力団記	戯曲	村山知義		
日清戦後	戯曲	村山知義		
年譜	年譜	村山知義		
砂糖の話	小説	中野重治		
波のあひま	小説	中野重治		
病気なほる	小説	中野重治		
新しい女	小説	中野重治		
モスクワ指して	小説	中野重治		
ドイツ国民党员	小説	中野重治		
年譜	年譜	中野重治		
同志愛	小説	貴司山治		
舞踏会事件	小説	貴司山治		
チタの烙印	小説	貴司山治		

借家人組合ニュース	小説	貴司山治		
貞淑な細君	小説	貴司山治		
年譜	年譜	貴司山治		
赤色スポーツ	小説	徳永直		
能率委員会	小説	徳永直		
約束手形三千八百円也	小説	徳永直		
あまり者	小説	徳永直		
プロマイトを捨てる	小説	徳永直		
馬	小説	徳永直		
眼	小説	徳永直		
カットされない場景	小説	徳永直		
年譜	年譜	徳永直		
染色体	小説	落合三郎		
年譜	年譜	落合三郎		
現代日本小説大系 第40巻：プロレタリア文学 第1			河出書房	1951/09/15
海に生人々	小説	葉山嘉樹		
淫賣婦	小説	葉山嘉樹		
セメント樽の中の手紙	小説	葉山嘉樹		
三等船客	小説	前田河広一郎		
地獄	小説	金子洋文		
泥棒亀とその仲間	小説	山川亮		
火事の夜まで	小説	今野賢三		
渦まける鳥の群	小説	黒島伝治		
苦力頭の表情	小説	里村欣三		
幽霊讀者	小説	山田清三郎		
山の鍛冶屋	小説	宮島資夫		
彼と彼の内臓	小説	江口渙		
解説	秋節	青野季吉		
現代日本小説大系 第41巻：プロレタリア文学 第2			河出書房	1950/10/15
太陽のない街	小説	徳永直		
キャラメル工場から	小説	佐多稲子		
金融資本の一断面	小説	橋本英吉		
ガトフ・フセググア	小説	岩藤雪夫		
綿	小説	加賀耿二	須井一	谷口善太郎
施療室にて	小説	平林たい子		
殴る	小説	平林たい子		
解説	解説	中野重治		
現代文学論大系 第4巻：プロレタリア文学			河出書房	1954/01/15
民衆芸術の意義	評論	加藤一夫		
民衆芸術の技巧	評論	大杉栄		
第四階級の文学	評論	中野秀人		
宣言一つ	評論	有島武郎		
第四階級の文学	評論	宮島資夫		
文芸運動と労働運動	評論	平林初之輔		

文芸運動と労働階級	評論	青野季吉		
「文芸戦線」以前	評論	青野季吉		
「調べた」芸術	評論	青野季吉		
外在批評論	評論	青野季吉		
内在批評以上のもの	評論	片上伸		
目的意識論	評論	青野季吉		
無産階級文芸論（総論）	評論	藤森成吉		
小説として書かれた 第四階級人類史	評論	千葉亀雄		
芸術至上主義の實體	評論	大宅壯一		
プロレタリア・リアリズムへの道	評論	蔵原惟人		
いはゆる芸術の大衆化論の誤りについて	評論	中野重治		
芸術運動における左翼清算主義	評論	蔵原惟人		
政治的価値と芸術的価値	評論	平林初之輔		
敗北の文学	評論	宮本顯治		
芸術に政治的価値なんてものはない	評論	中野重治		
芸術運動の組織問題再論	評論	蔵原惟人		
芸術的方法についての感想（前篇）	評論	蔵原惟人		
同伴者作家	評論	宮本顯治		
作家のために	評論	林房雄		
右翼的偏向の諸問題（抄）	評論	小林多喜二		
政治的批評の確立へ	評論	貴司山治		
同志小林の業績の評価に寄せて	評論	宮本百合子	中条百合子	
創作方法上の新轉換	評論	徳永直		
文化サークル活動への懐疑的清算主義的傾向に對して	評論	宮本顯治		
芸術上のリアリズムと哲学上の唯物論（抄）	評論	森山啓		
社会主義リアリズムの問題について	評論	宮本百合子	中条百合子	
日本プロレタリア文学運動方向轉換のために 抄	評論	鹿地亘		
轉形期に於ける作家の自我について	評論	亀井勝一郎		
冬を越す蕾	評論	宮本百合子	中条百合子	
一九三四年度に於けるブルジョア文学の動向	評論	宮本百合子	中条百合子	
社会主義的リアリズムの批判	評論	神山茂夫		
社会主義的リアリズムの問題	評論	中野重治		
芸術の國民的評價と世界的評價	評論	勝本清一郎		
獨立作家クラブについて	評論	中野重治		
認識論としての文芸学	評論	戸坂潤		
ジイドとそのソヴェト旅行記	評論	宮本百合子	中条百合子	
島木健作論（正、續）	評論	窪川鶴次郎		
農民作家論	評論	窪川鶴次郎		
ねちねちした進み方の必要	評論	中野重治		
芸術的価値と政治的価値	評論	窪川鶴次郎		
「人間性」と階級的立場	評論	大山郁夫		
新浪漫主義の相貌	評論	岩上順一		
解説	解説	中野重治		
日本プロレタリア文学大系(序)			三一書房	1955/03/31

I 小説				
第一部				
兵燹中の天津	小説	田岡嶺雲		
東京の木賃宿	小説	幸徳秋水		
駅夫日記	小説	白柳秀湖		
獄中生活	小説	堺利彦		
廃兵救慰会	小説	荒川義英		
夏	小説	荒畑寒村		
佐吉	小説	宮地嘉六		
第二部				
二少女	小説	国木田独歩		
昇降場	小説	広津柳浪		
朝飯	小説	島崎藤村		
戦話	小説	岩野泡鳴		
太十と其犬	小説	長塚節		
カンカン虫	小説	有島武郎		
和泉屋染物店	小説	木下杢太郎		
軀	小説	徳田秋声		
露谷	小説	小川未明		
トコヨゴヨミ	小説	田山花袋		
剃刀	小説	中村吉蔵		
牛部屋の匂い	小説	正宗白鳥		
影なき人	小説	青木健作		
II 評論				
小説と社会の隠微	評論	田岡嶺雲		
下流細民と文士	評論	田岡嶺雲		
ヒューマニチー	評論	田岡嶺雲		
新春の第壱喝	評論	田岡嶺雲		
一葉女史の『にごり江』	評論	田岡嶺雲		
詩人と人道	評論	田岡嶺雲		
所謂戦争文学	評論	幸徳秋水		
日本主義を論ず	評論	高山樗蔭		
暴風に寄するの辞	評論	松岡荒村		
木村夢弓に与えて現代の所謂円満を呪咀す	評論	松岡荒村		
ドレフュー大疑獄とエミール・ゾーラ	評論	幸徳秋水		
文士としての兆民先生	評論	幸徳秋水		
パイオニアの悪戦	評論	白柳秀湖		
山上憶良が貧窮問答の歌を読む	評論	松岡荒村		
時代閉塞の現状	評論	石川啄木		
発売禁止論	評論	平出修		
謀反論	評論	徳富蘆花		
A LETTER FROM PRISON EDITOR'S NOTES	評論	石川啄木		
新しい戯作者	評論	山本飼山		
緑蔭の家	評論	荒畑寒村		

相馬御風君に与う	評論	大杉栄		
労働運動と個人主義	評論	大杉栄		
III 詩・短歌・俳句				
詩				
社会主義詩人グループ				
大塩中斎先生の霊に捧ぐる歌	詩	児玉花外		
紡績女工	詩	児玉花外		
運転手歎きの歌	詩	児玉花外		
馬上哀吟	詩	児玉花外		
マザージョーンズ	詩	山口孤剣		
戦争の歌（三篇）	詩	木下尚江		
もの種の歌	詩	松岡荒村		
飴売之歌	詩	松岡荒村		
三つの声	詩	松岡荒村		
残逆の世に寄する歌	詩	松岡荒村		
労働軍歌	詩	小塚空谷		
革命行	詩	小塚空谷		
遊君	詩	児玉星人		
工女	詩	児玉星人		
ストライキ	詩	平木白星		
鐘に寄す	詩	山本露葉		
隴頭感慨	詩	大塚甲山		
農夫	詩	大塚甲山		
塘の揚	詩	大塚甲山		
「陣中詩篇」より	詩	小杉未醒		
月と病兵	詩	小杉未醒		
君死にたまうことなかれ	詩	与謝野晶子		
お百度詣で	詩	大塚楠緒子		
誠之助の死	詩	与謝野寛		
愚者の死	詩	佐藤春夫		
はてなき議論の後（一・二）	詩	石川啄木		
ココアのひと匙	詩	石川啄木		
激論	詩	石川啄木		
墓碑銘	詩	石川啄木		
愚かなるものよ	詩	徳永保之助		
DILEMMA	詩	佐藤緑葉		
野獣	詩	大杉栄		
短歌				
週刊「平民新聞」抄				
社会主義の歌	短歌	狂酔野人		
血 涙 吟	短歌	中里汪洋		
ああ戦争	短歌	海谷野人		
ト翁戦争論中に現われたる一農夫をしぬびて詠める歌	短歌	星山安		
戦争を呪う	短歌	山口孤剣		

週刊新聞「直言」抄				
暗潮	短歌	有香		
[無題]	短歌	閑野琴平		
[無題]	短歌	星山安		
[無題]	短歌	有香		
[無題]	短歌	無名氏		
[無題]	短歌	無名氏		
[無題]	短歌	汀秋生		
[無題]	短歌	桜子		
[無題]	短歌	緑川		
激湍集	短歌	赤羽生		
日刊「平民新聞」抄				
[無題]	短歌	相坂生		
[無題]	短歌	宮沢天韻		
[無題]	短歌	草風		
[無題]	短歌	安成懐春郎		
[無題]	短歌	相坂生		
[無題]	短歌	懐春郎		
[無題]	短歌	窓外		
[無題]	短歌	翠湖		
[無題]	短歌	寒村		
[無題]	短歌	たもつ		
九月の夜の不平	短歌	石川啄木		
工場にて歌える	短歌	広田楽		
若き機関手の歌える	短歌	近藤嵐翠		
工場の隅	短歌	森田天涙		
歌集「悲しき玩具」抄	短歌	石川啄木		
歌集「黄昏に」抄	短歌	土岐哀果		
片身の歌	短歌	田島梅子		
歌集「不平なく」抄	短歌	土岐哀果		
歌集「街上不平」抄	短歌	土岐哀果		
反国家の心	短歌	都会詩人		
最近二年間のわが生活の記録	短歌	安成次郎		
貧苦のなか	短歌	鈴木佐光		
魂いれかえて	短歌	唐木伝		
機械のかげにて	短歌	高崎篤郎		
解説	解説	小田切秀雄		
年表（附録）	年表	平野謙		
日本プロレタリア文学大系(1)			三一書房	1955/01/31
目次				
I 小説				
抗夫	小説	宮島資夫		
転機	小説	伊藤野枝		
労働者誘拐	小説	江口渙		

玩具の閃き	小説	丹潔		
馬鹿野郎！	小説	中村星湖		
空想の花	小説	上司小剣		
牢から出た男	小説	平沢紫魂		
赤毛の子	小説	平沢紫魂		
馬を洗う	小説	内藤辰雄		
放浪者富蔵	小説	宮地嘉六		
抗夫の夢	小説	新井紀一		
国境の夜	小説	秋田雨雀		
眼	小説	金子洋文		
雄阿寒おろし	小説	神近市子		
光を掲ぐるもの	小説	荒畑寒村		
或る機械	小説	細井和喜蔵		
或る体操教師の死	小説	藤森成吉田		
死滅する村	小説	小川未明		
大事の夜まで	小説	今野賢三		
特種事件と支社長	小説	山田清三郎		
種蒔き雑記	小説	金子洋文その他		
II 評論				
新しき世界の為めの新しき芸術	評論	大杉栄		
民衆芸術の出発点とその目標	評論	加藤一夫		
『労働問題』自序	評論	平沢計七		
民主的文芸の本質と使命	評論	白鳥省吾		
社会的文学に就て	評論	馬場孤蝶		
思想家に訴う（「種蒔く人」創刊号）	評論	[無署名]		
宣言（「種蒔く人」創刊号）	評論	種蒔き社		
編集後記（「種蒔く人」創刊号）	評論	[無署名]		
労働文学の主張	評論	宮島資夫		
宣言一つ	評論	有島武郎		
階級芸術の問題	評論	片上伸		
芸術運動における共同戦線	評論	小牧近江		
文芸運動と労働運動	評論	平林初之輔		
コムレードの芸術	評論	青野季吉		
階級闘争と芸術運動	評論	青野季吉		
文壇の政党化を難ず	評論	前田河広一郎		
III 詩・短歌				
詩				
殺戮の殿堂	詩	白鳥省吾		
五月、苦悩の日	詩	富田碎花		
或る淫売婦におくる詩	詩	山村暮鳥		
ローザ・ルクセンブルグ嬢を懐う	詩	正富汪洋		
五月祭の朝	詩	百田宗治		
疲れたるものの心理	詩	壺井繁治		
紙屑	詩	壺井繁治		

『どん底で歌う』Ⅰ	詩	根岸正吉		
『どん底で歌う』Ⅱ	詩	伊藤公敬		
群衆の中に	詩	萩原恭次郎		
ラスコーリニコフ	詩	萩原恭次郎		
争議の翌日	詩	賀川豊彦		
選挙の後	詩	賀川豊彦		
浴泉の恋	詩	白鳥省吾		
一月	詩	百田宗治		
エロシエンコに送る	詩	加藤一夫		
『種蒔く人』創刊号の詩全部	詩	福田正夫 白鳥省吾 松本淳三		
戦争はよくない	詩	武者小路実篤		
杜鵑	詩	木下杢太郎		
先駆者	詩	中山啓		
雪の線路を歩いて	詩	後藤謙太郎		
短歌				
真鍮粉 その他	短歌	松倉米吉		
その後	短歌	土岐善麿		
身辺触目	短歌	西村陽吉		
労働者の群より	短歌	三谷敬六		
我が働ける砲兵工廠にて歌う	短歌	広田健次		
工場の歌	短歌	佐柳破葉		
激せしころ	短歌	花田世大		
波止場人足	短歌	伊藤公敬		
無産者	短歌	西川百子		
女工の歌	短歌	里井柳枝		
石川島造船所にて	短歌	高野藤太郎		
『現代国語歌選』より	短歌	後藤史郎 森田草一 伊藤公敬 徳田英夫 秋田としみつ		
俳句				
[無題]	俳句	宮村董哉		
[無題]	俳句	山上正義		
解説 社会主義文学から「種蒔く人」廃刊まで	解説	小田切秀雄		
年表 (一九一六年—一九二三年)	年表	日本近代文学研究所編		
日本プロレタリア文学大系(2)			三一書房	1954/10/31再版
目次				
Ⅰ 小説				
淫淫売婦	小説	葉山嘉樹		
電報	小説	黒島伝治		
土に生く	小説	犬田卯		

屋根裏から微かに漏れる言葉	小説	中西伊之助		
馬	小説	徳永直		
女工哀史抄	小説	細井和喜蔵		
地平に現れるもの	小説	小島勲		
セメント樽の中の手紙	小説	葉山嘉樹		
林檎	小説	林房雄		
一兵卒の震災手記	小説	越中谷利一		
苦力頭の表情	小説	里村欣三		
人を殺す犬	小説	小林多喜二		
散弾	小説	藤森成吉		
櫓	小説	黒島伝治		
施療室にて	小説	平林たい子		
交番前	小説	中野重治		
キャラメル工場から	小説	佐多稲子	窪川稲子	
線路工夫	小説	山内謙吾		
滝子其地	小説	小林多喜二		
標的になった彼奴	小説	立野信之		
放浪記抄	小説	林芙美子		
II 評論・声明書				
「文芸戦線」以前（「種蒔き社」解散前後）	評論	青野季吉		
文芸戦線社同人旧綱領規約	評論	[今野賢三ほか]		
啄木に関する断片	評論	中野重治		
万国の革命的プロレタリア作家に檄す	評論	[ベドヌイほか]		
「調べた」芸術	評論	青野季吉		
日本プロレタリア文芸連盟規定草案その他	評論	[山田清三郎ほか]		
文芸家と社会生活（無産派文芸家連盟の要）	評論	山田清三郎		
文学運動の中心点	評論	山内房吉		
目的意識論	評論	青野季吉		
自然成長と目的意識	評論	青野季吉		
自然成長と目的意識再論	評論	青野季吉		
社会主義文芸運動	評論	「文芸戦線」社説		
所謂社会主義文芸を克服せよ	評論	鹿地亘		
自然主義文学の消長	評論	蔵原惟人		
芸術に関する走り書覚え書	評論	中野重治		
文芸批評	評論	片上伸		
無産階級芸術運動の新段階	評論	蔵原惟人		
現代文学者の階級的性質	評論	青野季吉		

無産派文芸家討論会 第五十五回新潮合評会 司会：檜崎勤／中村武羅夫	評論	青野季吉 麻生義 小堀甚二 荻原恭次郎 佐々木孝孝丸 片岡鉄兵 林房雄 勝本清一郎 中野重治 大宅壮一 鹿地亘		
日本左翼文芸家総連合成る	評論	日本左翼文芸家総連合		
プロレタリア文学運動の理論的及び実践的展開の過程	評論	平林初之輔		
無産派芸術家諸団体の分裂の意義	評論	小宮山明敏		
政治と芸術の問題その他	評論	壺井繁治		
我国に於ける尖端芸術運動に関する一考察	評論	高見順		
III 詩・詩論・短歌・俳句				
詩				
杉よ！眼の男よ！	詩	中浜哲		
無題	詩	荻原恭次郎		
吹雪の葬式	詩	渡辺信義		
櫓	詩	渡辺信義		
雪の線路を歩いて	詩	後藤謙太郎		
採炭夫のうた	詩	後藤謙太郎		
サッコ、ヴァンゼッチの死	詩	小野十三郎		
断崖	詩	小野十三郎		
虐無主義に	詩	小野十三郎		
百姓は生さず殺すな！	詩	渋谷定輔		
罵倒と迫害の中に成長する児の宣言	詩	渋谷定輔		
無題	詩	野村吉哉		
三角形の太陽	詩	野村吉哉		
ガキの死	詩	野村吉哉		
愛と憎しみ	詩	岡本潤		
夜から朝へ	詩	岡本潤		
号外	詩	岡本潤		
贅沢な乞食	詩	岡本潤		
頭の中の兵士	詩	壺井繁治		
内部の断層	詩	壺井繁治		
坂に喘ぐ馬	詩	壺井繁治		
夜明け前のさようなら	詩	中野重治		
歌	詩	中野重治		
無産者新聞第百号	詩	中野重治		
山東へやった手紙	詩	三好十郎		
職代	詩	三好十郎		

大川がだまって流れる	詩	三好十郎		
セカイノトモダチヨ	詩	三好十郎		
悲劇	詩	坂本遼		
プロレタリアの唄	詩	上野壮夫		
考えを建てなおそう	詩	西沢隆二		
憤怒	詩	西沢隆二		
荒縄	詩	西沢隆二		
俺たちは伝えよう	詩	秀島武		
妹へ	詩	秀島武		
早春	詩	森山啓		
松葉杖の廃兵	詩	森山啓		
プロレタリアの魂	詩	大森二郎		
反資本主義	詩	緒方貞翁		
同志の歌	詩	窪川鶴次郎		
吹雪の中	詩	三川秀夫		
兄弟のために	詩	久保田経		
戦争を克服せよ	詩	小林園夫		
プロレタリアの詩	詩	小林園夫		
彼を倒せ	詩	長谷川進		
夜明けの集合	詩	波立一		
詩論				
郷土望景詩に現れた憤怒	詩論	中野重治		
短歌				
「第一の街」抄	短歌	西村陽吉		
「貧乏の歌」抄	短歌	渡辺順三		
「黎明を行く」抄	短歌	清水信		
「土の歌」抄	短歌	中村孝助		
「空に咲く花」抄	短歌	後藤史郎		
「青木集」抄	短歌	田辺駿一		
俳句				
[無題]	俳句	浅野純一		
[無題]	俳句	和田久太郎		
[無題]	俳句	栗林一石路		
[無題]	俳句	橋本夢道		
解説「文芸戦線」創刊から「ナップ」成立まで	解説	平野謙		
年表（一九二四六～一九二八・三）	年表	日本近代文学研究所編		
日本プロレタリア文学大系(3)			三一書房	1954/10/31
目次				
I 小説				
十姉妹	小説	山本勝治		
汜濫	小説	黒島伝治		
黒人の兄弟	小説	江馬修		
牧場を追われて	小説	鶴田知也		
生ける人形抄	小説	片岡鉄兵		

傷だらけのお秋	小説	三好十郎		
豪雨	小説	立野信之		
一九二八年三月十五日	小説	小林多喜二		
朽ちゆく望楼	小説	間宮茂輔		
鉄	小説	岩藤雪夫		
鉄の話	小説	中野重治		
II 評論				
プロレタリア・レアリズムへの道	小説	蔵原惟人		
いわゆる芸術大衆化論のあやまりについて	小説	中野重治		
芸術運動当面の緊急問題	小説	蔵原惟人		
戦線統一から具体的な活動へ	小説	山田清三郎		
形式主義文学説を排す	小説	勝本清一郎		
政治的価値と芸術的価値	小説	平林初之輔		
作品に於ける左翼社会民主主義の暴露	小説	窪川鶴次郎		
平林初之輔氏の所論その他	小説	川口浩		
谷川氏のマルクス主義文学理論の批判の批判	小説	青野季吉		
III 詩・詩論・短歌・俳句				
詩				
坑内の娘	詩	松田解子		
おりゃ朝鮮人だ	詩	金柄昊		
檻の中	詩	波立一		
労働する女たちよ	詩	長谷川進		
落馬した兵士	詩	江森盛弥		
河	詩	森山啓		
南葛労働者	詩	森山啓		
敗れて帰る俺たち	詩	三好十郎		
居残りの夜	詩	高木進二		
「三月十五日」に送る	詩	松崎啓次		
立毛押えに抗して	詩	上村実彦		
朝のデモ	詩	仁木二郎		
広場より	詩	仁木二郎		
故渡辺政之輔を悼む	詩	大谷圭三		
勲章	詩	宮本喜久雄		
プロレタリアの子守唄	詩	大滝友二		
奴等の仕打ち	詩	岡田頌二郎		
拷問を耐える歌	詩	田木繁		
汽車の中で	詩	秀島武		
野性の花束	詩	佐藤獄夫		
寂しい音	詩	平沢貞二郎		
一人の少女の死	詩	平沢貞二郎		
夜刈りの思い出	詩	中野重治		
あいつ安んぜよ	詩	小林園夫		
短歌				
一口ポットの手記	短歌	幹愴太		

呪わしき世相	短歌	井上義雄		
チリメン工場その他	短歌	柳田新太郎		
第十回メーデー	短歌	矢代東村		
鎖の一環	短歌	南正胤		
小作争議	短歌	飯田兼次郎		
百姓の味	短歌	大鳥居金一郎		
旋風の中へ!	短歌	伊沢信平		
浚渫船	短歌	岡部文夫		
街頭進出	短歌	前川佐美雄		
永代橋	短歌	坪野哲久		
争議断片	短歌	古田富郎		
新労農党結党式	短歌	相田省二		
工場のなか	短歌	佐藤英		
鉾山から	短歌	佐藤栄吉		
俳句				
[無題]	俳句	横山賀茂水		
[無題]	俳句	栗林一石路		
[無題]	俳句	橋本夢道		
[無題]	俳句	新井夜雨		
[無題]	俳句	上野冬生		
[無題]	俳句	浜口弥十郎		
[無題]	俳句	小沢武二		
[無題]	俳句	小林空車		
[無題]	俳句	土呂工夫		
[無題]	俳句	土呂工夫人		
[無題]	俳句	神山木石水		
[無題]	俳句	吉田立烏		
[無題]	俳句	千原昧旦		
[無題]	俳句	中野風葉		
[無題]	俳句	中村苦味生		
[無題]	俳句	鷹取源一郎		
[無題]	俳句	奥村竹路		
[無題]	俳句	横山梨青郎		
[無題]	俳句	浪本蕉一		
[無題]	俳句	熊沢沙郎		
[無題]	俳句	柄沢丹郎		
[無題]	俳句	杉崎正作		
[無題]	俳句	北村冬陽		
[無題]	俳句	横山林二		
解説「戦旗」創刊から文化連盟結成まで(上)	解説	蔵原惟人		
年表(一九二八・三～一九二九・六)	年表	日本近代文学研究所編		
日本プロレタリア文学大系(4)			三一書房	1954/12/25
目次				
I 小説				

暴力団記	小説	村山知義		
太陽のない街抄	小説	徳永直		
反逆の呂律	小説	武田麟太郎		
セムガ（鮭）	小説	前田河広一郎		
傷だらけの歌	小説	藤沢桓夫		
敷設列車	小説	平林たい子		
真理の春抄	小説	細田民樹		
忍術武勇伝	小説	貴司山治		
巷路過程	小説	細田源吉		
労働日記と靴	小説	鹿地亘		
浮動する地価	小説	黒島伝治		
波のあいま	小説	中野重治		
ガス！	小説	橋本英吉		
II 評論				
反戦文学論	評論	黒島伝治		
プロレタリア芸術運動理論	評論	山田清三郎		
プロレタリア芸術運動理論	評論	小堀甚二		
農民小説論	評論	立野信之		
文芸批評の座標について	評論	大宅壮一		
敗北の文学	評論	宮本顕治		
プロレタリア文学の大衆化とプロレタリア・レアリス	評論	小林多喜二		
ナップ芸術家の新しい任務	評論	蔵原惟人		
プロレタリア文学理論の展開	評論	青野季吉		
III 詩・短歌・俳句				
詩				
解団式	詩	白須孝輔		
再び立上る日の為に	詩	下川儀太郎		
窓	詩	窪川鶴次郎		
友達のこと	詩	神吉暢		
今日義兄が監獄からもどってくる	詩	坂本遼		
保護職工	詩	森竹夫		
山村食料記録	詩	森佐一		
戦争	詩	金井新作		
飢渴地帯	詩	小森盛		
戦争	詩	北川冬彦		
しゃっぽをかぶらない農夫等	詩	滝沢二一		
俺達だ	詩	ビー丸のK		
燕	詩	伊藤信吉		
百万の中の母と子	詩	伊庭康		
掘ろう	詩	河野健二		
起ち上がる	詩	森山啓		
横顔	詩	上田進		
短歌				
刺された心臓	短歌	飯田兼次郎		

メーデー擁護	短歌	美木行雄		
なびく旗	短歌	美木行雄		
メーデーの列	短歌	石村夏川		
五月祭縦隊行進	短歌	南正胤		
嵐・嵐・嵐	短歌	南正胤		
汽笛	短歌	広田楽		
貧しさに詠める他	短歌	坂根弥吉		
山宣への報告書	短歌	林田茂雄		
考える	短歌	内藤雅之助		
模範小作人表彰会	短歌	佐々木妙二		
道路工事	短歌	高橋福次郎		
バットより安い勲章	短歌	橘哲夫		
[無題]	短歌	大内隆雄		
[無題]	短歌	成田曄子		
俳句				
[無題]	俳句	河津癸		
[無題]	俳句	栗林一石路		
[無題]	俳句	橋本夢道		
[無題]	俳句	横山林二		
[無題]	俳句	新井夜雨		
[無題]	俳句	上野冬生		
[無題]	俳句	横山梨青郎		
[無題]	俳句	流鋭		
[無題]	俳句	黒土子		
[無題]	俳句	浜口弥十郎		
[無題]	俳句	千原昧旦		
[無題]	俳句	黒沢衛		
[無題]	俳句	賢木栄		
[無題]	俳句	中野風葉		
[無題]	俳句	井上省一		
[無題]	俳句	西山啓二		
[無題]	俳句	家木礼介		
[無題]	俳句	黒木光子		
[無題]	俳句	和泉田文麿		
[無題]	俳句	神山癸卯		
[無題]	俳句	長江螢光		
[無題]	俳句	藤川硬兵		
[無題]	俳句	難波綾彦		
[無題]	俳句	藤田秋泉		
[無題]	俳句	藤木壮子		
[無題]	俳句	逢阪薊		
[無題]	俳句	北村春畦		
[無題]	俳句	佚名		
解説「戦旗」創刊から文化連盟結成まで	解説	蔵原惟人		

年表（一九二九・七～一九三〇・七）	年表	日本近代文学研究所編		
日本プロレタリア文学大系(5)			三一書房	1955/05/30
目次				
I 小説・戯曲				
綿	小説	加賀耿二	須井一	谷口善太郎
売られる田地——文戦劇場上演用台本一	戯曲	伊藤貞助		
浅野セメント争議六月三十日夜の素描	小説	今野賢三		
天国の記録抄	小説	下村千秋		
波	小説	貴司山治		
嵐に抗して	小説	木村良夫		
愛情の問題	小説	片岡鉄兵		
虱	小説	手塚英孝		
根	小説	中野重治		
省電車掌	小説	黒江勇		
壁小説テガミ	小説	小林多喜二		
壁小説朝の一景	小説	武田麟太郎		
壁小説差入れ競走	小説	細田源吉		
壁小説オルグ二人	小説	村山知義		
生きた新聞 ファッション人形（一幕）	戯曲	久保栄		
万宝山	小説	伊藤永之助		
II 評論				
一九三〇年度に於けるナップの方針書	評論	ナップ中央協議会		
文芸戦線の最近の傾向と分裂・乱闘事件の階級的意義	評論	窪川鶴次郎		
六名の除名について	評論	労農芸術家連盟		
日本に於けるプロレタリア文学運動についての同志松山の報告に対する決議	評論	国際革命文学局 第二回拡大総会 日本委員会		
農民とプロレタリア文学	評論	池田寿夫		
プロレタリア・リアリズムの実践について	評論	青野季吉		
朝鮮に於けるプロレタリア芸術運動の現状	評論	安漠		
一九三一年に於けるナップの方針書	評論	ナップ中央協議会		
一九三一年五月日本プロレタリア作家同盟第三回大会議事録	評論	[無署名]		
プロレタリア芸術運動の組織問題	評論	蔵原惟人		
プロレタリア革命作家第一回国際大会に於ける日本プロレタリア文学運動についての報告	評論	松山敏		
通信員 文学サークル 文学新聞	評論	中野重治		
一九三二年春季総会迄に於ける連盟活動方針	評論	労農芸術家連盟秋季総会		
ベルリンからの緊急討論	評論	勝本清一郎		
芸術理論におけるレーニン主義のための闘争	評論	蔵原惟人		
文学批評の基準	評論	宮本顕治		
プロレタリア詩人会発展の概観	評論	遠地輝武		
III 詩・短歌				
詩				
雨の降る品川	詩	中野重治		
貧農のうたえる詩	詩	長沢佑		

機関庫の俺等	詩	滝沢二一		
アルメニアの兄弟	詩	新井徹		
最上川の歌	詩	大道寺浩一		
味噌汁	詩	中野鈴子		
俺達の世の中	詩	今野大力		
早春	詩	森山啓		
飢えて	詩	森山啓		
建設のロシア	詩	村田達夫		
吼えろ	詩	久勤		
オレの喜び	詩	赤木浩		
短歌				
おいらは炭焼きだ	短歌	井上義雄		
[無題]	短歌	半田静爾		
[無題]	短歌	土井文枝		
[無題]	短歌	大半津啓		
[無題]	短歌	大原陽一		
[無題]	短歌	渡辺順三		
[無題]	短歌	吉田竜次郎		
[無題]	短歌	竹内一美		
[無題]	短歌	堤信一郎		
[無題]	短歌	内藤雅之助		
[無題]	短歌	中田忠夫		
[無題]	短歌	藤田晋一		
[無題]	短歌	小池竜		
[無題]	短歌	赤石茂		
[無題]	短歌	北沢孝夫		
[無題]	短歌	住田枝雪		
新興の途上にて	短歌	坂根彌吉		
パン	短歌	西村耕二		
深夜業者の歌	短歌	大石鉄雄		
新ロシア風景	短歌	飯田兼次郎		
被告入廷	短歌	矢代東村		
解説	解説	小田切秀雄		
年表 (一九三〇・八～一九三一・一二)	年表	日本近代文学研究所編		
日本プロレタリア文学大系(6)			三一書房	1954/11/30
目次				
I 小説				
党生活者	小説	小林多喜二		
青年抄	小説	林房雄		
清水焼風景抄	小説	加賀耿二	須井一	谷口善太郎
亀のチャーリイ	小説	藤森成吉		
女性苦抄	小説	松田解子		
因われた大地抄	小説	平田小六		
村の次男	小説	和田伝		

白い壁	小説	本庄陸男		
牡丹のある家	小説	佐多稲子	窪川稲子	
盲目	小説	島木健作		
炭抗抄	小説	橋本英吉		
II 評論・声明書				
日本プロレタリア文化連盟の任務	評論	[無署名]		
機関紙『プロレタリア文学』創刊に際して	評論	プロレタリア作家同盟		
『国際革命作家同盟』加入に際して檄す！	評論	日本プロレタリア作家同盟		
文新通信員規定	評論	[無署名]	文学新聞	
労農芸術家連盟解散の辞	評論	文戦 労農芸術家連盟		
政治と芸術 政治の優位性に関する問題・結語	評論	宮本顕治		
作家として	評論	林房雄		
最近の所謂「歴史小説」の問題によせて	評論	本多秋五		
プティ・ブルジョア・インテリゲンツィアの道	評論	平野謙		
一連の非プロレタリア的作品	評論	宮本百合子	中条百合子	
右翼的偏向の諸問題	評論	小林多喜二		
創作方法上の新転換	評論	徳永直		
文学運動の新たなる段階のために	評論	鹿地亘		
ナルプ解体の声明	評論	日本プロレタリア作家同盟第三回拡大中央委員会		
III 詩・短歌・俳句				
詩				
生ける銃架	詩	槇村浩		
間島バルチザンの歌	詩	槇村浩		
スパルタクスの道を	詩	上野壯夫		
露のとうを摘む子等	詩	長沢佑		
別れ	詩	木原駒		
日織のオルグへ	詩	松原信		
時計	詩	田村武		
鉄骨の上にて	詩	佐川光二郎		
紺の胴体	詩	後藤郁子		
役所の中から	詩	今泉純		
新しい習慣を組織しよう	詩	遠地輝武		
高い窓	詩	西沢隆二		
五月一日に	詩	山田清三郎		
今夜おれはお前の寝息を聞いてやる	詩	中野重治		
やられた友に	詩	松山達枝		
中国の同志へ手をさしのべる	詩	橋本正一		
施盤工の歌	詩	林光範		
低気圧へ	詩	小熊秀雄		
俺達は機械だ！輝かしい音	詩	大江満雄		
煙に曇る夜の屋敷裏	詩	沖田英雄		
芝浦	詩	村田達夫		

デントンよ！	詩	姉川茂安		
除草機	詩	桜井徳太郎		
橋	詩	杉沼秀七		
若いやもめ	詩	森山啓		
あの三人について	詩	久木仁吉		
示威へ	詩	北山雅子		
デスマスクに添えて	詩	松田解子		
短歌				
靴下の穴	短歌	浦野敬		
今日と明日との間	短歌	井上鎧三		
就職苦難	短歌	吉田秀雄		
時事即詠	短歌	内山泰三		
病夫	短歌	山本萌		
被告入廷	短歌	矢代東村		
片貌	短歌	太田村次郎		
工場街	短歌	正田長一郎		
生活断片	短歌	正田良		
農民の顔	短歌	長谷川俊雄		
ガス社外エスト	短歌	坪野哲久		
春	短歌	石井光		
二月三日	短歌	梅田順三		
追懐	短歌	青野谷夫		
啄木を思いつつ	短歌	石井光		
むちに抗する	短歌	西原正春		
白い嵐	短歌	川崎むつを		
私の生活から	短歌	泉春枝		
ある朝	短歌	渡辺順三		
俳句				
[無題]	俳句	栗原一石路		
[無題]	俳句	神代藤平		
[無題]	俳句	横山林二		
[無題]	俳句	米林米翁		
[無題]	俳句	戸塚宮吉		
[無題]	俳句	清内路二		
[無題]	俳句	時田繁二		
[無題]	俳句	村井千代		
[無題]	俳句	神代藤平・ 九木進 合作		
[無題]	俳句	阪川志郎		
[無題]	俳句	原田竜夫		
[無題]	俳句	風間光作		
[無題]	俳句	鍛冶正		
[無題]	俳句	冴山路		
[無題]	俳句	宇野輝夫		

[無題]	俳句	逢阪薊		
[無題]	俳句	綾木紅潮		
[無題]	俳句	一農余治		
[無題]	俳句	関せん子		
[無題]	俳句	黒木哲		
[無題]	俳句	橋本夢道		
[無題]	俳句	北野三郎		
[無題]	俳句	藤田啓二		
[無題]	俳句	森秀男		
[無題]	俳句	太田良吉		
[無題]	俳句	北城子		
[無題]	俳句	江口渙		
[無題]	俳句	佚名		
[無題]	俳句	鍛冶正		
[無題]	俳句	康雄		
[無題]	俳句	F Y 生		
解説	解説	野間宏		
年表 (一九三二～一九三四・三)	年表	日本近代文学研究所編		
日本プロレタリア文学大系(7)			三一書房	1955/04/30
目次				
I 小説				
釜ガ崎	小説	武田麟太郎		
今日様	小説	葉山嘉樹		
劇場	小説	村山知義		
風雲	小説	窪川鶴次郎		
乳房	小説	宮本百合子	中条百合子	
鈴木・都山・八十島	小説	中野重治		
鶏飼いのコミュニスト	小説	平林彪吾		
人生のいり口	小説	江口渙		
夕焼の窓	小説	間宮茂輔		
嗚呼いやなことだ	小説	高見順		
彼岸	小説	徳永直		
綴方教室抄	小説	豊田正子		
友情	小説	立野信之		
草場	小説	金親清		
II 評論				
「文学者に就いて」について	評論	中野重治		
創作方法と芸術家の世界観	評論	森山啓		
作家同盟の解散	評論	江口渙		
社会主義的リアリズムか！日和見主義的リアリズムか	評論	伊藤貞助		
否定的リアリズムについて	評論	川口浩		
プロレタリア文学とナルプの功罪	評論	山田清三郎		
政治と文学について	評論	亀井勝一郎		
冬を越す蕾	評論	宮本百合子	中条百合子	

創作方法と世界観との相互滲透	評論	甘粕石介		
III 詩・短歌・俳句				
詩				
春を告ぐるモスクワ河の流氷	詩	秋田雨雀		
燈台	詩	金子光晴		
しゃべり捲くれ	詩	小熊秀雄		
ヴォルガ河のために	詩	小熊秀雄		
鶯の歌	詩	小熊秀雄		
伏字	詩	さかい・とくぞう	坂井徳三	
青酸カリ時代	詩	さかい・とくぞう	坂井徳三	
英語ざらい	詩	壺井繁治		
横光利一の洋行	詩	遠地輝武		
朝へ行く	詩	平林彪吾		
鋌打工	詩	田木繁		
帯鋸	詩	田木繁		
極めて家庭的に	詩	木村好子		
河	詩	北川冬彦		
稲作挿話	詩	宮沢賢治		
短歌				
旧作	短歌	川崎むつを		
風船はり	短歌	矢代東村		
死んだ同志	短歌	和沢昌治		
貧農の唄	短歌	萩原大助		
病床	短歌	石井光		
工場から	短歌	岡村浄一郎		
鉄錠の音	短歌	大沢久明		
橋梁舗装工事	短歌	青江竜樹		
京浜工場地帯	短歌	渡辺順三		
海猫によせて	短歌	坪野哲久		
南葛の空	短歌	渡辺順三		
国境の町	短歌	速水惣一郎		
冬と春	短歌	赤木健介		
網走	短歌	津村駿		
面会	短歌	中村亮子		
職場の歌	短歌	水原蓮		
生活から	短歌	小原猛雄		
鞭に抗する	短歌	西原正春		
俳句				
[無題]	俳句	橋本夢道		
[無題]	俳句	栗林一石路		
[無題]	俳句	神代藤平		
[無題]	俳句	横山林二		
[無題]	俳句	林冬二		
[無題]	俳句	藤田秋泉		

[無題]	俳句	田中順		
[無題]	俳句	すずき・ゆきひと		
[無題]	俳句	三浦成一郎		
[無題]	俳句	斎藤武男		
[無題]	俳句	小山一平		
[無題]	俳句	樺口赤子		
[無題]	俳句	浜口彌十郎		
[無題]	俳句	伴栄		
[無題]	俳句	市木千尋		
[無題]	俳句	中村怒濤		
[無題]	俳句	新井夜雨		
[無題]	俳句	清内路二		
[無題]	俳句	井形春一		
[無題]	俳句	北原良子		
[無題]	俳句	伊藤棒地		
[無題]	俳句	登死男		
[無題]	俳句	柳京次		
[無題]	俳句	山口羊仙		
[無題]	俳句	水野敏		
解説	解説	野間宏		
年表（一九三四・四～一九三七・六）	年表	日本近代文学研究所編		
日本プロレタリア文学大系(7) 追加			三一書房	
社会主義リアリズムと革命的(反資本主義)リアリズム――前者の中野・森山の歪曲に対して――	評論	久保栄		
国際反ファシズム文化運動（序説）	評論	新村猛		
認識論としての文芸学	評論	戸坂潤		
「日本文芸学」批判	評論	本間唯一		
日本国民文学の確立（読者層編成替えの上に現れた明治文学発展の経路と、文学大衆化のキソとしての国語・国字の問題）	評論	高倉テル	タカクラ・テル	
もうろくずきん	詩	萩原恭次郎		
コップ酒屋にいる男の群	詩	伊藤和		
ふるさとへの歌	詩	船方一		
船底修理	詩	松永浩介		
サガレンの浮浪者	詩	広海太治		
鉄骨工事場	詩	大元清二郎		
浜辺	詩	鈴木浅五郎		
走れ！ トロッコ	詩	赤石茂		
陳述	詩	神保光太郎		
アディスアベバの老母 私は新聞の写真を見ながら考	詩	大江満雄		
空は赤く焼けて	詩	植村諦		
第十六回メーデー	詩	秋山清		
ある朝――昭和十一年二月二十九日	詩	秋山清		
労働抄	短歌	後藤順一郎		

兵営生活回想	短歌	剛一志		
鉄路に唄う	短歌	福島和人		
一九三六・五・一	短歌	佐藤吉之助		
雷雨	短歌	南龍夫		
独房集	短歌	鍋井利		
市井事	短歌	梅田順二		
朝霧	短歌	萩原大助		
[無題]	俳句	横山梨青郎		
[無題]	俳句	木島青天		
[無題]	俳句	黒崎草生		
[無題]	俳句	柳田千矢		
[無題]	俳句	清水源恚		
[無題]	俳句	百瀬菜穂吐		
[無題]	俳句	齋藤継子		
[無題]	俳句	軌道閃		
[無題]	俳句	殿村兵衛		
[無題]	俳句	信濃馬一		
[無題]	俳句	山村幸男		
[無題]	俳句	岸田椋十		
[無題]	俳句	大蔵宏之		
[無題]	俳句	一瀬鉄平		
[無題]	俳句	石橋辰之助		
[無題]	俳句	石田波郷		
[無題]	俳句	東京三 (秋元不死男)		
[無題]	俳句	古家樞夫		
[無題]	俳句	藤田初己		
[無題]	俳句	宮沢赤黄男		
[無題]	俳句	篠原鳳作		
[無題]	俳句	加藤揪邨		
[無題]	俳句	中村草田男		
獄中作(編笠)より	俳句	ひろし・ぬやま		
[無題]	俳句	江口渙		
日本プロレタリア文学大系(8)			三一書房	1955/02/28
目次				
Ⅰ 小説				
梟	小説	伊藤永之介		
光の中に	小説	金史良		
樹々新緑	小説	佐多稲子	窪川稲子	
廊下	小説	壺井栄		
三月の第四日曜	小説	宮本百合子	中条百合子	
街あるき	小説	中野重治		
櫛の芽立	小説	橋本英吉		
子を護る	小説	葉山嘉樹		

煉瓦女工	小説	小池富美子		
日本の活字	小説	徳永直		
坂	小説	小沢清		
ヒットラー（戯曲）	小説	中野秀人		
II 評論・声明書				
散文精神について	評論	広津和郎		
考える世代	評論	岩上順一		
文化政策への期待	評論	窪川鶴次郎		
ホワイト・リスト論	評論	中島健蔵		
「二葉亭的と鷗外的と」	評論	除村吉太郎		
「暗夜行路」雑談	評論	中野重治		
コッペルニクスの転向	評論	花田清輝		
文学と時代	評論	佐々木基一		
間隙の克服	評論	小田切秀雄		
荒木寅三郎の頭	評論	河上肇		
III 詩・短歌・俳句				
詩				
蝶	詩	壺井繁治		
夢の戦場 他	詩	岡本潤		
女のすすり泣きの歌 他	詩	小熊秀雄		
Impromptu 他	詩	中野重治		
落下傘 他	詩	金子光晴		
白い炎 他	詩	小野十三郎		
七月二日	詩	赤木健介		
幼年 他	詩	金鐘漢		
ざれ歌 他	詩	ひろし・ぬやま		
味噌	詩	河上肇		
附 戦歿詩人集（「はるかなる山河に」「きけわだつみのこえ」その他）				
泥濘 他	詩	田辺利宏		
面会 他	詩	浅見有一		
私は便所の中でこれを書いている	詩	武井修		
馬	詩	大関松三郎		
道祖神祭	詩	耒海宏		
愛情	詩	稲垣光夫		
さようなら	詩	杉村裕		
初雪	詩	樋詰辰夫		
巖	詩	中村喜代司		
暁の光を待つ	詩	保立靖子		
黄なる土	詩	川崎誠		
肌近い死	詩	小倉竜男		
短歌				
上海	短歌	高井邦夫		
硝煙のなかに	短歌	長谷川誠一		
冬草	短歌	赤木健介		

新らしい糧	短歌	一条徹		
[無題]	短歌	青江竜樹		
[無題]	短歌	高橋政治		
[無題]	短歌	山笠草平		
今年の冬はきびしい 他	短歌	渡辺順三		
むしろの上 他	短歌	小名木綱夫		
調べ 他	短歌	内田穰吉		
俳句				
[無題]	俳句	橋本夢道		
[無題]	俳句	栗林一石路		
[無題]	俳句	神代藤平		
[無題]	俳句	三浦成一郎		
[無題]	俳句	横山林二		
[無題]	俳句	すずき・ゆきひと		
[無題]	俳句	林冬二		
[無題]	俳句	斎藤則		
[無題]	俳句	山口羊仙		
[無題]	俳句	藤田港		
[無題]	俳句	清内路二		
[無題]	俳句	三池桑拓木		
[無題]	俳句	市木千尋		
[無題]	俳句	嶺達二		
[無題]	俳句	井形春一		
[無題]	俳句	多胡比左志		
[無題]	俳句	住吉珍什郎		
[無題]	俳句	北原良子		
[無題]	俳句	柳京次		
[無題]	俳句	斎藤継子		
[無題]	俳句	奥田平		
[無題]	俳句	石橋辰之助		
[無題]	俳句	東京二		
[無題]	俳句	藤田初己		
[無題]	俳句	礎郎幹介		
[無題]	俳句	加藤楸邨		
[無題]	俳句	中村草田男		
[無題]	俳句	古家樞夫		
[無題]	俳句	中台春嶺		
[無題]	俳句	石田波郷		
[無題]	俳句	江原恒雄		
[無題]	俳句	小柳昌		
[無題]	俳句	杉村聖林子		
[無題]	俳句	岩崎健二郎		
[無題]	俳句	戸田茂		
解説 中日戦争の開始から敗戦まで	解説	竹内好		

年表（一九三七・七～一九四五・八）	年表	日本近代文学研究所編			
日本プロレタリア文学選 1		蔵原惟人監修		新日本出版社	1969/01/30
脱走者	小説	藤森成吉			
地獄	小説	金子洋文			
幽霊読者	小説	山田清三郎			
馬	小説	徳永直			
セメント樽の中の手紙	小説	葉山嘉樹			
櫓	小説	黒島伝治			
棺と赤旗	小説	橋本英吉			
線路工夫	小説	山内謙吾			
十姉妹	小説	山本勝治			
朽ちゆく望楼	小説	間宮茂輔			
鉄	小説	岩藤雪夫			
労働日記と靴	小説	鹿地亘			
嵐に抗して	小説	木村良夫			
東俱知安行	小説	小林多喜二			
虱	小説	手塚英孝			
解題	解説	小林茂夫			
日本プロレタリア文学選 2		蔵原惟人監修		新日本出版社	1969/02/25
省電車掌	小説	黒江勇			
綿	小説	谷口善太郎	須井一		加賀耿二
監房細胞	小説	鈴木清			
白い壁	小説	本庄陸男			
人生の入り口	小説	江口渙			
小祝の一家	小説	宮本百合子	中条百合子		
廊下	小説	壺井栄			
煉瓦女工	小説	小池富美子			
解説・解題	解説	小林茂夫			
日本現代文学全集69：プロレタリア文学集			講談社	1969/01/19	
日本現代文学全集69：プロレタリア文学集（増補改訂版）			講談社	1980/05	
三等船客	小説	前田河広一郎			
林檎	小説	林房雄			
繭	小説	林房雄			
苦力頭の表情	小説	里村欣三			
散弾	小説	藤森成吉			
土堤の大会	小説	藤森成吉			
友情	小説	立野信之			
三つの棺	小説	山内謙吾			
十姉妹	小説	山本勝治			
ガトフ・フセグダア	小説	岩藤雪夫			
朽ちゆく望楼	小説	間宮茂輔			
嵐に抗して	小説	木村良夫			
綿	小説	須井一	加賀耿二		谷口善太郎
風雲	小説	窪川鶴次郎			

青服	小説	貴司山治		
鶏飼いのコミュニスト	小説	平林彪吾		
人生の入り口	小説	江口渙		
光の中に	小説	金史良		
第四階級の文学	評論	中野秀人		
第四階級の文学	評論	宮嶋資夫		
唯物史観と文学	評論	平林初之輔		
文芸運動と労働運動	評論	平林初之輔		
政治的価値と芸術的価値	評論	平林初之輔		
文学的自己清算に就て	評論	大宅壯一		
マルクス主義の自殺か暗殺か	評論	大宅壯一		
プロレタリア・レアリズムへの道	評論	蔵原惟人		
芸術運動当面の緊急問題	評論	蔵原惟人		
ナップ芸術家の新しい任務	評論	蔵原惟人		
芸術理論におけるレーニン主義のための闘争	評論	蔵原惟人		
芸術運動における前衛性と大衆性	評論	勝本清一郎		
プロレタリア芸術運動理論	評論	山田清三郎		
プロレタリア芸術運動理論	評論	小堀甚二		
敗北の文学	評論	宮本顯治		
創作方法と世界観との相互浸透	評論	甘粕石介		
プロレタリア文学の再出発	評論	林房雄		
否定的リアリズムについて	評論	川口浩		
認識論としての文芸学	評論	戸坂潤		
考える世代	評論	岩上順一		
日本プロレタリア文学集・1：初期プロレタリア文学集(一)			新日本出版社	1985/04/25
かんかん虫	小説	有島武郎		
お末の死	小説	有島武郎		
カインの末裔	小説	有島武郎		
馬車屋と軍人	小説	江口渙		
児を殺す話	小説	江口渙		
労働者誘拐	小説	江口渙		
中尉と廃兵	小説	江口渙		
ブラック・リスト	小説	江口渙		
恋と牢獄	小説	江口渙		
密告漢	小説	小川未明		
無産階級者	小説	小川未明		
火を点ず	小説	小川未明		
死滅する村	小説	小川未明		
堤防を突破する波	小説	小川未明		
貧しき人々の群	小説	宮本百合子	中条百合子	
禰宜様宮田	小説	宮本百合子	中条百合子	
風に乗って来るコロポックル	小説	宮本百合子	中条百合子	
光のない朝	小説	宮本百合子	中条百合子	
秋の反射	小説	宮本百合子	中条百合子	

解説	解説	祖父江昭二		
日本プロレタリア文学集・2：初期プロレタリア文学集(二)			新日本出版社	1985/05/25
新戦場	小説	徳永保之助		
鉛毒	小説	徳永保之助		
石炭焚	小説	平沢計七		
死	小説	平沢計七		
赤毛の子	小説	平沢計七		
孝行	小説	平沢計七		
御主人様	小説	平沢計七		
金貨の音	小説	平沢計七		
二人の中尉	小説	平沢計七		
暴風雨の前	小説	平沢計七		
転機	小説	伊藤野枝		
火つけ彦七	小説	伊藤野枝		
逆徒	小説	平出修		
廃兵救慰会	小説	荒川義英		
山鼠の如く	小説	沖野岩三郎		
初年兵江木の死	小説	細田民樹		
或兵卒の記録	小説	細田民樹		
凱旋	小説	細田民樹		
盗人	小説	藤森成吉		
ある体操教師の死	小説	藤森成吉		
脱走者	小説	藤森成吉		
解説	解説	祖父江昭二		
日本プロレタリア文学集・3：初期プロレタリア文学集(三)			新日本出版社	1985/06/25
坑夫	小説	宮嶋資夫		
恨なき殺人	小説	宮嶋資夫		
土方部屋	小説	宮嶋資夫		
老人夫	小説	宮嶋資夫		
安全弁	小説	宮嶋資夫		
真偽	小説	宮嶋資夫		
黄金地獄	小説	宮嶋資夫		
違算	小説	宮嶋資夫		
鉄工場	小説	宮地嘉六		
佐吉	小説	宮地嘉六		
紫煙の臭い	小説	宮地嘉六		
騒擾後	小説	宮地嘉六		
ある職工の手記	小説	宮地嘉六		
放浪者富蔵	小説	宮地嘉六		

赤シャツの仲間	小説	宮地嘉六		
解説	解説	祖父江昭二		
日本プロレタリア文学集・4：初期プロレタリア文学集（四）			新日本出版社	1985/08/25
競点射撃	小説	新井紀一		
坑夫の夢	小説	新井紀一		
怒れる高村軍曹	小説	新井紀一		
煽動	小説	新井紀一		
燃ゆる反抗	小説	新井紀一		
雨の八号室	小説	新井紀一		
闘争	小説	新井紀一		
立ちん坊の死	小説	内藤辰雄		
馬を洗う	小説	内藤辰雄		
閉ざされた窓	小説	内藤辰雄		
人夫市場	小説	内藤辰雄		
人殺し	小説	吉田金重		
雨を衝いて	小説	吉田金重		
洋刀の響	小説	吉田金重		
敗残者の群	小説	吉田金重		
盲狂人の死	小説	吉田金重		
鉄の呻き	小説	吉田金重		
職工思想調査書	小説	加藤由蔵		
狩勝国境	小説	加藤由蔵		
銀貨	小説	加藤由蔵		
玩具の閃き	小説	丹潔		
坑夫の死	小説	諸根正一		
馬鹿野郎！	小説	中山星湖		
万歳	小説	水守亀之助		
象やの糸さん	小説	長谷川如是閑		
移住者	小説	片岡厚		
解説	解説	祖父江昭二		
日本プロレタリア文学集・5：初期プロレタリア文学集（五）			新日本出版社	1985/10/30
火事の夜まで	小説	今野賢三		
汽笛	小説	今野賢三		
おれは行く	小説	今野賢三		
坂	小説	今野賢三		
彼れ	小説	今野賢三		
決闘	小説	山川亮		
泥棒亀の話	小説	山川亮		
小さな町の出来事	小説	山川亮		
影像	小説	山川亮		
馬盗人	小説	山川亮		

幽霊読者	小説	山田清三郎		
特種事件と支社長	小説	山田清三郎		
若き時代	小説	山田清三郎		
三等船客	小説	前田河広一郎		
脱船以後	小説	前田河広一郎		
麵麩	小説	前田河広一郎		
犬	小説	前田河広一郎		
脅威	小説	前田河広一郎		
最後に笑う者	小説	前田河広一郎		
監獄の庭	小説	井東憲		
軍国主義と雷	小説	井東憲		
歯車	小説	岡下一郎		
練炭にかぶれる	小説	岡下一郎		
組合旗	小説	岡下一郎		
雄阿寒おろし	小説	神近市子		
兵營の背教者	小説	千葉武郎		
粉擾	小説	中野正人		
カレンダー・ロール	小説	辻本浩太郎		
淋びれゆく漁村	小説	広瀬川浩二		
兵と兵	小説	島田美彦		
一等症	小説	北村小松		
解説	解説	祖父江昭二		
日本プロレタリア文学集・6：中西伊之助集			新日本出版社	1985/07/30
赭土に芽ぐむもの	小説	中西伊之助		
生ける墳墓	小説	中西伊之助		
農夫喜兵衛の死	小説	中西伊之助		
解説	解説	祖父江昭二		
日本プロレタリア文学集・7：細井和喜蔵集			新日本出版社	1985/09/25
死と生と一緒	小説	細井 和気蔵		
或る機械	小説	細井 和気蔵		
女給	小説	細井 和気蔵		
モルモット	小説	細井 和気蔵		
奴隷	小説	細井 和気蔵		
工場	小説	細井 和気蔵		
解説	解説	小林茂夫		
日本プロレタリア文学集・8：葉山嘉樹集			新日本出版社	1985/08/25
牢獄の半日	小説	葉山 嘉樹		
淫売婦	小説	葉山 嘉樹		
セメント樽の中の手紙	小説	葉山 嘉樹		
労働者の居ない船	小説	葉山 嘉樹		
乳色の靄	小説	葉山 嘉樹		
生爪を剥ぐ	小説	葉山 嘉樹		
坑夫の子	小説	葉山 嘉樹		
船の犬「カイン」	小説	葉山 嘉樹		

暗い顔	小説	葉山 嘉樹		
海底に眠るマドロスの群	小説	葉山 嘉樹		
優秀船「狸」丸	小説	葉山 嘉樹		
移動する村落	小説	葉山 嘉樹		
人間の値段	小説	葉山 嘉樹		
海に生きる人々	小説	葉山 嘉樹		
解説	解説	津田孝		
日本プロレタリア文学集・9：黒島伝治集			新日本出版社	1984/09/25
電報	小説	黒島伝治		
隔離質	小説	黒島伝治		
二銭銅貨	小説	黒島伝治		
豚群	小説	黒島伝治		
砂糖泥棒	小説	黒島伝治		
彼等の一生	小説	黒島伝治		
雪のシベリア	小説	黒島伝治		
櫂	小説	黒島伝治		
渦巻ける鳥の群	小説	黒島伝治		
穴	小説	黒島伝治		
氾濫	小説	黒島伝治		
パルチザン・ウォルコフ	小説	黒島伝治		
氷河	小説	黒島伝治		
捕虜の足	小説	黒島伝治		
土鼠と落盤	小説	黒島伝治		
砂金	小説	黒島伝治		
海の第十一工場	小説	黒島伝治		
浮動する地価	小説	黒島伝治		
お化け煙突	小説	黒島伝治		
国境	小説	黒島伝治		
前哨	小説	黒島伝治		
傷病兵	小説	黒島伝治		
岬	小説	黒島伝治		
武装せる市街	小説	黒島伝治		
解説	解説	小林茂夫		
日本プロレタリア文学集・10：「文芸戦線」作家集（一）			新日本出版社	1985/11/25
見えない鉱山	小説	伊藤永之介		
山越え	小説	伊藤永之介		
山の一頁	小説	伊藤永之介		
総督府模範竹林	小説	伊藤永之介		
平地蕃人	小説	伊藤永之介		
万宝山	小説	伊藤永之介		
濁り酒	小説	伊藤永之介		
採草地	小説	伊藤永之介		
苦力頭の表情	小説	里村欣三		
娘の時代	小説	里村欣三		

シベリアに近く	小説	里村欣三		
旅浪の宿	小説	里村欣三		
旅順	小説	里村欣三		
「帰ってくれ」	小説	里村欣三		
岩藤雪夫	小説	岩藤雪夫		
ガトフ・フセグダア	小説	岩藤雪夫		
赤い灯	小説	岩藤雪夫		
妹へ	小説	岩藤雪夫		
鉄	小説	岩藤雪夫		
紙幣乾	小説	岩藤雪夫		
燥室の女工	小説	岩藤雪夫		
老人と寡婦	小説	小堀甚二		
避難線	小説	小堀甚二		
解説	解説	津田孝		
日本プロレタリア文学集・11：「文芸戦線」作家集（二）			新日本出版社	1985/12/25
海鳴り	小説	鶴田知也		
牧場を逐われて	小説	鶴田知也		
シベリアから返って来た手紙	小説	鶴田知也		
闇の怒	小説	鶴田知也		
或る農夫の話	小説	鶴田知也		
十姉妹	小説	山本勝治		
員章を打つ	小説	山本勝治		
セムガ（鮭）	小説	前田河広一郎		
アトランテック丸	小説	前田河広一郎		
処女地	小説	今野賢三		
土に生く	小説	犬田卯		
開墾	小説	犬田卯		
黙せる魂	小説	犬田卯		
解放された農奴	小説	犬田卯		
芋	小説	佐左木俊郎		
駙落	小説	佐左木俊郎		
熊の出る開墾地	小説	佐左木俊郎		
黒い地帯	小説	佐左木俊郎		
都会地図の膨張	小説	佐左木俊郎		
祭の夜	小説	飯田豊二		
銅像になった将軍と馬	小説	飯田豊二		
解説	解説	津田孝		
日本プロレタリア文学集・12：「文芸戦線」作家集3			新日本出版社	1986/01/25
能率工場法	小説	井上健次		
官業	小説	井上健次		
百二十五人目	小説	井上健次		
警鐘	小説	田中忠一郎		
爆発	小説	田中忠一郎		
十三人	小説	田中忠一郎		

息子の留守中	小説	田中忠一郎		
カムサツカ	小説	等々力徳重		
母	小説	等々力徳重		
人間売りたし	小説	鈴木清次郎		
四日間	小説	中務保二		
貧しい砂丘	小説	浜崎秀司		
健康保険患者	小説	加藤龍郎		
密閉	小説	中井正晃		
前進する雑踏	小説	長谷川進		
海風	小説	長谷川進		
線路工夫	小説	山内謙吾		
三つの棺	小説	山内謙吾		
掃除夫	小説	山内謙吾		
暴徒	小説	山内謙吾		
砲声	小説	伊藤貞助		
一応の平穩	小説	宗十三郎		
解説	解説	津田孝		
日本プロレタリア文学集・13：「文芸戦線」作家集			新日本出版社	1986/02/25
穿きもの	小説	細田源吉		
巷路過程	小説	細田源吉		
九九九九人と一人	小説	細田源吉		
全休前	小説	細田源吉		
同志は呼ぶ	小説	細田源吉		
信賴	小説	細田源吉		
或る砲手の死	小説	細田民樹		
大検拳の後	小説	細田民樹		
黒の死刑女囚	小説	細田民樹		
オララの力	小説	細田民樹		
トタン堀の中	小説	細田民樹		
朽ちゆく望楼	小説	間宮茂輔		
闇	小説	間宮茂輔		
搾る為の工事	小説	間宮茂輔		
鉦山の私娼窟	小説	間宮茂輔		
地平に現れるもの	小説	小島勲		
怖ろしき摇篮	小説	小島勲		
転戦十日間	小説	小島勲		
警備員	小説	小島勲		
トンカトントンカッタカッタ	小説	今野大力		
棹取夫今吉の死	小説	今村恒夫		
柵の外へ	小説	岩藤雪夫,小島勲,里村欣三		
解説	解説	津田孝		
日本プロレタリア文学集・14：「戦旗」「ナップ」作家集 1			新日本出版社	1984/05/15
散弾	小説	藤森成吉		
話す	小説	藤森成吉		

草間中尉	小説	藤森成吉		
土堤の大会	小説	藤森成吉		
亀のチャーリィ	小説	藤森成吉		
移民	小説	藤森成吉		
小さい田舎者	小説	山田清三郎		
紙幣束	小説	山田清三郎		
深夜の闖入者	小説	山田清三郎		
廻し者	小説	山田清三郎		
五月祭前夜	小説	山田清三郎		
「螢の光」	小説	山田清三郎		
間際の電報	小説	山田清三郎		
一兵卒の震災手記	小説	越中谷利一		
一兵卒多仲の死	小説	越中谷利一		
不発弾	小説	越中谷利一		
飯粒で貼られた伝單	小説	越中谷利一		
処女地 血と学生	小説	村山知義		
スポーツ委員会	小説	村山知義		
野火	小説	上野壮夫		
燻る	小説	上野壮夫		
跳弾	小説	上野壮夫		
解説	解説	佐藤静夫		
日本プロレタリア文学集・15：「戦旗」「ナッフ」作家集 2			新日本出版社	1984/07/15
標的になった彼奴	小説	立野信之		
軍隊病	小説	立野信之		
泥濘	小説	立野信之		
赤い空	小説	立野信之		
豪雨	小説	立野信之		
若者	小説	立野信之		
少年隊	小説	立野信之		
伝染病	小説	立野信之		
生ける人形	小説	片岡鉄兵		
打倒六郷会	小説	片岡鉄兵		
綾里村快拳録	小説	片岡鉄兵		
通信工手	小説	片岡鉄兵		
愛情の問題	小説	片岡鉄兵		
卑しき者	小説	片岡鉄兵		
発端	小説	片岡鉄兵		
村の医者	小説	榎本楠郎		
土工	小説	榎本楠郎		
解説	解説	佐藤静夫		
日本プロレタリア文学集・16：「戦旗」「ナッフ」作家集 3			新日本出版社	1984/10/15
兵士	小説	鹿地亘		
喜三太	小説	鹿地亘		
労働日記と靴	小説	鹿地亘		

火蓋を切る	小説	鹿地亘		
太平の雪	小説	鹿地亘		
小僧さんの手紙	小説	中野重治		
交番前	小説	中野重治		
春さきの風	小説	中野重治		
鉄の話	小説	中野重治		
停車場	小説	中野重治		
砂糖の話	小説	中野重治		
根	小説	中野重治		
開墾	小説	中野重治		
蝶つがい	小説	中野重治		
菊の花	小説	中野重治		
村のあらましの話	小説	中野重治		
野田へ行く	小説	西沢隆二		
お加代	小説	西沢隆二		
暴力	小説	武田麟太郎		
連絡する船	小説	武田麟太郎		
反逆の呂律	小説	武田麟太郎		
休む軌道	小説	武田麟太郎		
脈打つ血行	小説	武田麟太郎		
荒っぽい村	小説	武田麟太郎		
捕手	小説	武田麟太郎		
奇蹟	小説	江馬修		
黒人の兄弟	小説	江馬修		
甲板船客	小説	江馬修		
きよ子の経験	小説	江馬修		
本郷村善九郎	小説	江馬修		
解説	解説	佐藤静夫		
日本プロレタリア文学集・17：「戦旗」「ナッフ」作家集 4			新日本出版社	1984/11/15
トロッコを押す	小説	大森二郎		
三月十八日	小説	大森二郎		
橋と飴屋	小説	大森二郎		
PNパン製造所	小説	大森二郎		
踏みつけられる麦	小説	壺井繁治		
兵營へ	小説	壺井繁治		
兄の同志に送る手紙	小説	壺井繁治		
スケッチ風のデスマスク	小説	明石鉄也		
起重機	小説	明石鉄也		
冬眠	小説	明石鉄也		
火線の構造	小説	明石鉄也		
故郷	小説	明石鉄也		
林檎	小説	林房雄		
絵のない絵本	小説	林房雄		
繭	小説	林房雄		

N監獄署懲罰日記	小説	林房雄		
鉄窓の花	小説	林房雄		
鎖	小説	林房雄		
日曜日	小説	藤沢桓夫		
子供	小説	藤沢桓夫		
ローザになれなかった女	小説	藤沢桓夫		
傷だらけの歌	小説	藤沢桓夫		
燃える石	小説	藤沢桓夫		
漁夫	小説	藤沢桓夫		
海岸埋立工事	小説	藤沢桓夫		
解説	解説	佐藤静夫		
日本プロレタリア文学集・18：「戦旗」「ナップ」作家集5			新日本出版社	1984/12/15
植木屋と廃兵	小説	高見順		
用造のはなしと吉造のはなし	小説	高見順		
堤に行く救済婦人会	小説	高見順		
三・一五犠牲者	小説	高見順		
オシャカ	小説	高見順		
雨	小説	高見順		
反対派	小説	高見順		
旱魃	小説	金親清		
製鉄起業祭	小説	金親清		
裸の町	小説	金親清		
草場	小説	金親清		
沈み繰り	小説	安瀬利八郎		
セリプレン	小説	安瀬利八郎		
除隊	小説	安瀬利八郎		
雨のち晴	小説	安瀬利八郎		
煙草密耕作	小説	大江賢次		
軍需工場	小説	大江賢次		
雪崩	小説	細野孝二郎		
耕地区分表	小説	細野孝二郎		
吹雪	小説	細野孝二郎		
闘争	小説	細野孝二郎		
不肖の親爺	小説	細野孝二郎		
解説	解説	佐藤静夫		
日本プロレタリア文学集・19：「戦旗」「ナップ」作家集6			新日本出版社	1985/01/25
倉庫を渡る少年	小説	渋谷川驍		
難破船	小説	渋谷川驍		
手蹟	小説	渋谷川驍		
夜	小説	長沖一		
母子一景	小説	長沖一		
拾円札	小説	丸山義二		
地主の正体	小説	丸山義二		
嘘	小説	秋田実		

犬	小説	秋田実		
情報集	小説	那珂孝平		
サンマ流し	小説	那珂孝平		
少年労働市場	小説	那珂孝平		
貯金局員	小説	那珂孝平		
芽	小説	荒木巍		
火花	小説	荒木巍		
再建	小説	荒木巍		
奴隷市場	小説	堀田昇一		
冬近く	小説	堀田昇一		
貨物船	小説	堀田昇一		
黄色十字弾	小説	堀田昇一		
何も有たぬ男	小説	森山啓		
火	小説	森山啓		
露台へ！	小説	松隈研二		
船の挿話	小説	新田潤		
ごくつぶし	小説	三好十郎		
山峡の動き	小説	猪野省三		
嵐に抗して	小説	木村良夫		
文七兄妹	小説	水町三郎		
未組織工場へ	小説	神田錦三		
解説	解説	佐藤静夫		

日本プロレタリア文学集・20：「戦旗」「ナッフ」作家集 7	新日本出版社	1985/03/25
--------------------------------------	---------------	-------------------

風	小説	手塚英孝		
過程	小説	生江健次		
省電電車	小説	黒江勇		
自作農	小説	五十公野清一		
秋	小説	五十公野清一		
レール	小説	北川冬彦		
東方青年	小説	秋田雨雀		
ヤンガア・ジェネレーション	小説	久坂栄二郎		
部署	小説	長沢佑		
秋祭り	小説	真鍋元之		
縊死	小説	佐野順一郎		
慰問金	小説	阿蘇弘		
発端	小説	佐々木一夫		
早魃ののち	小説	佐々木一夫		
万歳	小説	銘康雄		
夫	小説	橋本幸吉		
三日兵	小説	田中英士		
彼と彼の内臓	小説	江口渙		
非常時母の会	小説	江口渙		
三等車	小説	江口渙		
人生の入り口	小説	江口渙		

掌編・壁小説集				
オルグ二人	小説	村山知義		
若い者等の権利	小説	立野信之		
今度こそ	小説	片岡鉄兵		
差入れ競争	小説	細田源吉		
テガミ	小説	小林多喜二		
父帰る	小説	小林多喜二		
争われない事実	小説	小林多喜二		
帝国主義デマ	小説	徳永直		
世話役	小説	徳永直		
組合葬	小説	橋本栄吉		
養魚場	小説	宇千田虚吉		
防備隊	小説	黒島伝治		
伝単	小説	藤沢桓夫		
疵	小説	小林多喜二		
ショール	小説	徳永直		
つぶし島田	小説	細田民樹		
元日	小説	谷口善太郎	須井一	加賀耿二
明るくなった家	小説	村井創		
遺族	小説	加藤政吉		
慰問袋	小説	山田清三郎		
級長の願い	小説	小林多喜二		
チチハルまで	小説	黒島伝治		
弟	小説	小野康介		
妹の手紙	小説	丸山義二		
労働者倶楽部	小説	貴司山治		
百姓鑑	小説	細野孝二郎		
除隊	小説	上野壮夫		
雪の朝	小説	堀田昇一		
とも喰い	小説	本庄睦男		
おれ達の代表	小説	山内謙吾		
印刷局証券課では	小説	那珂孝平		
名勝地帯	小説	黒島伝治		
ふんどし通信	小説	高林太郎		
ある老職工の手記	小説	郷利樹		
前夜	小説	本庄睦男		
メーデーへ	小説	徳永直		
出征送別会	小説	高見順		
ピラ	小説	安瀬利八郎		
演習	小説	南田喜一		
ラッパ	小説	小松義雄		
公主領	小説	那珂孝平		
父	小説	貴司山治		
父と裁判	小説	中村鬼十郎		

「凱旋」	小説	堀田昇一		
汗	小説	小松義雄		
ピオニールの加勢	小説	藤村潤		
お菜のない弁当	小説	本庄睦男		
朝会	小説	山本繁		
総合旗を折る	小説	永崎貢		
出征前に	小説	青井要		
市電争議と円タク	小説	武田麟太郎		
焼芋	小説	立野信之		
部落の夜	小説	長沢佑		
義雄の「お正月」	小説	徳永直		
庄五郎おやじ	小説	谷口善太郎	須井一	加賀耿二
銃殺	小説	谷口善太郎	須井一	加賀耿二
バット	小説	永崎貢		
兵士委員会	小説	今井兵一		
救援耕作	小説	江口渙		
河原で	小説	永崎貢		
解説	解説	佐藤静夫		
日本プロレタリア文学集・21：婦人作家集 1			新日本出版社	1987/09/30
烈日	小説	若杉鳥子		
梁上の足	小説	若杉鳥子		
棄てる金	小説	若杉鳥子		
母親	小説	若杉鳥子		
古戸棚	小説	平林たい子		
投げすてよ！	小説	平林たい子		
嘲る	小説	平林たい子		
夜風	小説	平林たい子		
荷車	小説	平林たい子		
殴る	小説	平林たい子		
森の中	小説	平林たい子		
朝鮮人	小説	平林たい子		
敷説列車	小説	平林たい子		
石鯰工場の同志 耕地	小説	平林たい子		
赤	小説	中本たか子		
恐慌	小説	中本たか子		
地下鉄	小説	中本たか子		
戦い	小説	中本たか子		
鎖	小説	中本たか子		
工場の前衛	小説	中本たか子		
卑怯者去らば去れ	小説	中本たか子		
レポーター一年枝	小説	中本たか子		
再び工場へ	小説	中本たか子		
プロ文士の妻の日記	小説	壺井栄		
屍を越えて	小説	壺井栄		

月給日	小説	壺井栄		
大根の葉	小説	壺井栄		
廊下	小説	壺井栄		
種	小説	壺井栄		
解説	解説	佐藤静夫		
日本プロレタリア文学集・22：婦人作家集 2			新日本出版社	1987/09/30
産む	小説	松田解子		
乳を売る	小説	松田解子		
風呂場事件	小説	松田解子		
行く者帰る者	小説	松田解子		
重役は云ったが	小説	松田解子		
卵	小説	松田解子		
勘定日	小説	松田解子		
白と黒	小説	松田解子		
ある戦線	小説	松田解子		
飯場で	小説	松田解子		
そだち	小説	松田解子		
大銚屑	小説	松田解子		
行進図	小説	松田解子		
キャラメル工場から	小説	佐多稲子	窪川稲子	
女店員とストライキ	小説	佐多稲子	窪川稲子	
煙草工女	小説	佐多稲子	窪川稲子	
自己紹介	小説	佐多稲子	窪川稲子	
四・一六の朝	小説	佐多稲子	窪川稲子	
研究会挿話	小説	佐多稲子	窪川稲子	
幹部女工の涙	小説	佐多稲子	窪川稲子	
小幹部	小説	佐多稲子	窪川稲子	
祈祷	小説	佐多稲子	窪川稲子	
強制帰国	小説	佐多稲子	窪川稲子	
何を為すべきか	小説	佐多稲子	窪川稲子	
初めての経験から	小説	佐多稲子	窪川稲子	
生活の権利	小説	佐多稲子	窪川稲子	
進路	小説	佐多稲子	窪川稲子	
恐怖	小説	佐多稲子	窪川稲子	
独り立ち	小説	佐多稲子	窪川稲子	
健康な女の子	小説	村山篝子		
セリブレン	小説	田島ユキ		
逆襲	小説	田島ユキ		
哀号！	小説	佐藤さち子		
団長選挙	小説	佐藤さち子		
解説	解説	佐藤静夫		
日本プロレタリア文学集・23：婦人作家集（三）			新日本出版社	1987/09/30
隣りの夢	小説	北川千代		
転倒	小説	堀江かど江		

戦慄	小説	葵イツ子		
魔石を打ち砕け	小説	望月百合子		
土地の代償	小説	住井すゑ		
搾取網	小説	住井すゑ		
土地の反逆	小説	住井すゑ		
農村雑景	小説	住井すゑ		
行きつくまでは	小説	戸川静子		
ゴム靴	小説	戸川静子		
日華製粉神戸工場	小説	小坂多喜子		
残業手当	小説	小坂多喜子		
弟へ	小説	野稻ハツ		
五月雨	小説	松井締子		
柿を持ってきた父	小説	八木秋子		
黒い恋	小説	高群逸枝		
歩む	小説	戸田豊子		
鋳物工場	小説	戸田豊子		
女看守	小説	川瀬美子		
その村の新年	小説	川瀬美子		
姉妹	小説	川瀬美子		
光を感じずる子	小説	若林つや		
押し寄せる波	小説	若林つや		
集団の力	小説	若林つや		
女子青年団	小説	若林つや		
おいらん草	小説	若林つや		
朱い訪問着	小説	太田洋子		
女を連れに行ったルミ	小説	太田洋子		
重のおっ母さん	小説	小野田慶子		
転形期	小説	大谷藤子		
貴き御事業	小説	大谷藤子		
消え残る生活	小説	平林英子		
発端	小説	平林英子		
模範工場	小説	平林英子		
お信	小説	平林英子		
育むもの	小説	平林英子		
階級に育てられる女	小説	藍川陽		
霧が降る	小説	藍川陽		
踊る戦線	小説	後藤かつ子		
反逆	小説	矢田津世子		
罌を飛び越える女	小説	矢田津世子		
導火線	小説	横田文子		
母への文	小説	松村清子		
労働者の町	小説	畠山ひさ		
明日へ行く者	小説	大石千代子		
解説	解説	佐藤静夫		

日本プロレタリア文学集・24：徳永直集(一)			新日本出版社	1987/01/25
馬	小説	徳永直		
戦争雑記	小説	徳永直		
あまり者	小説	徳永直		
能率委員会	小説	徳永直		
小資本家	小説	徳永直		
麦の芽	小説	徳永直		
大砲を磨く	小説	徳永直		
約束手形	小説	徳永直		
三千八百円也	小説	徳永直		
戦列への道	小説	徳永直		
赤色スポーツ	小説	徳永直		
豊年飢饉	小説	徳永直		
「赤い恋」以上	小説	徳永直		
頂点に立つ	小説	徳永直		
赤旗びらき	小説	徳永直		
苦しい道	小説	徳永直		
太陽のない街	小説	徳永直		
解説	解説	津田孝		
日本プロレタリア文学集・25：徳永直集(二)			新日本出版社	1987/03/25
女工舎監の日記	小説	徳永直		
未組織工場	小説	徳永直		
ファッション	小説	徳永直		
山一製糸工場	小説	徳永直		
工場新聞	小説	徳永直		
火は飛ぶ	小説	徳永直		
島原女	小説	徳永直		
百姓花嫁	小説	徳永直		
梶川ツルの死	小説	徳永直		
女の産地	小説	徳永直		
飛行機小僧	小説	徳永直		
最初の記憶	小説	徳永直		
他人の中	小説	徳永直		
黎明期	小説	徳永直		
解説	解説	津田孝		
日本プロレタリア文学集・26：小林多喜二集(一)			新日本出版社	1987/12/25
人を殺す犬	小説	小林多喜二		
瀧子其他	小説	小林多喜二		
防雪林	小説	小林多喜二		
一九二八年三月十五日	小説	小林多喜二		
東俱知安行	小説	小林多喜二		
蟹工船	小説	小林多喜二		
不在地主	小説	小林多喜二		
工場細胞	小説	小林多喜二		

オルグ	小説	小林多喜二		
解説	解説	西沢舜一		
日本プロレタリア文学集・27：小林多喜二集(二)			新日本出版社	1988/01/25
独房	小説	小林多喜二		
母たち	小説	小林多喜二		
安子	小説	小林多喜二		
転形期の人々 (断稿)	小説	小林多喜二		
沼尻村	小説	小林多喜二		
党生活者	小説	小林多喜二		
地区の人々	小説	小林多喜二		
解説	解説	西沢舜一		
日本プロレタリア文学集・28：宮本百合子集			新日本出版社	1988/03/30
共同耕作	小説	宮本百合子	中条百合子	
舗道	小説	宮本百合子	中条百合子	
一九三二年の春	小説	宮本百合子	中条百合子	
だるまや百貨店	小説	宮本百合子	中条百合子	
刻々	小説	宮本百合子	中条百合子	
小祝の一家	小説	宮本百合子	中条百合子	
聒	小説	宮本百合子	中条百合子	
鏡餅	小説	宮本百合子	中条百合子	
鈍・根・録	小説	宮本百合子	中条百合子	
乳房	小説	宮本百合子	中条百合子	
雑沓	小説	宮本百合子	中条百合子	
海流	小説	宮本百合子	中条百合子	
道づれ	小説	宮本百合子	中条百合子	
猫車	小説	宮本百合子	中条百合子	
築地河岸	小説	宮本百合子	中条百合子	
その年	小説	宮本百合子	中条百合子	
日々の映り	小説	宮本百合子	中条百合子	
杉垣	小説	宮本百合子	中条百合子	
おもかげ	小説	宮本百合子	中条百合子	
広場	小説	宮本百合子	中条百合子	
三月の第四日曜	小説	宮本百合子	中条百合子	
解説	解説	西沢舜一		
日本プロレタリア文学集・29：谷口善太郎集			新日本出版社	1986/11/30
三・一五事件挿話	小説	谷口善太郎	須井一	加賀耿二
綿	小説	谷口善太郎	須井一	加賀耿二
踊る	小説	谷口善太郎	須井一	加賀耿二
幼き合唱	小説	谷口善太郎	須井一	加賀耿二
樹のない村	小説	谷口善太郎	須井一	加賀耿二
鉄	小説	谷口善太郎	須井一	加賀耿二
恐慌以後	小説	谷口善太郎	須井一	加賀耿二
行軍	小説	谷口善太郎	須井一	加賀耿二
お千代	小説	谷口善太郎	須井一	加賀耿二

参宮列車で	小説	谷口善太郎	須井一	加賀耿二
帰郷	小説	谷口善太郎	須井一	加賀耿二
土地は誰のものか	小説	谷口善太郎	須井一	加賀耿二
清水焼風景	小説	谷口善太郎	須井一	加賀耿二
解説	解説	伊豆利彦		
日本プロレタリア文学集・30：細田民樹，貴司山治集			新日本出版社	1987/07/30
真理の春	小説	細田民樹		
パス車掌七百人	小説	貴司山治		
ハンスト	小説	貴司山治		
八島製薬工場	小説	貴司山治		
仲秋名月	小説	貴司山治		
ゴー・ストップ	小説	貴司山治		
解説	解説	小林茂夫		
日本プロレタリア文学集・31：本庄陸男，鈴木清集			新日本出版社	1987/04/25
北の開墾地	小説	本庄 陸男		
移住する彼の家	小説	本庄 陸男		
馬と人間達	小説	本庄 陸男		
過剰なる弟達	小説	本庄 陸男		
秋空の下	小説	本庄 陸男		
香山の顔	小説	本庄 陸男		
歓迎会	小説	本庄 陸男		
手紙	小説	本庄 陸男		
春のない春	小説	本庄 陸男		
白い壁	小説	本庄 陸男		
橋梁	小説	本庄 陸男		
火を継ぐもの	小説	鈴木清		
母たちの示威	小説	鈴木清		
三ツの死	小説	鈴木清		
監房細胞	小説	鈴木清		
解説	解説	松澤信祐		
日本プロレタリア文学集・32：橋本英吉，タカクラ・テル集			新日本出版社	1988/04/30
嫁支度	小説	橋本英吉		
棺と赤旗	小説	橋本英吉		
発端	小説	橋本英吉		
少年工の希い	小説	橋本英吉		
眼	小説	橋本英吉		
金融資本の一断面	小説	橋本英吉		
ガス	小説	橋本英吉		
建築	小説	橋本英吉		
わかもの	小説	橋本英吉		
坑夫傷害日記	小説	橋本英吉		
櫛の芽立	小説	橋本英吉		
炭坑	小説	橋本英吉		
百姓のうた	小説	タカクラ・テル	高倉テル	

解説	解説	松澤信祐		
日本プロレタリア文学集・33：ルポルターージュ集（一）			新日本出版社	1988/09/30
職業病	ルポ	宮嶋資夫		
労働者の傷害	ルポ	宮嶋資夫		
日立鉱山事件入獄記	ルポ	麻生久		
小作人の生活	ルポ	天川佐吉郎		
富川町から（立ン坊物語）	ルポ	里村欣三		
女工哀史	ルポ	細井和喜蔵		
狼へ！（わが労働）	ルポ	藤森成吉		
製糸女工虐待史	ルポ	佐倉啄二		
解説	解説	今崎暁巳		
日本プロレタリア文学集・34：ルポルターージュ集（二）			新日本出版社	1988/10/30
関東大震災				
種蒔き雑記一亀戸の殉職者を哀悼するために一	ルポ	[無署名]		
十五円五十銭	ルポ	壺井繁治		
戒厳令と兵卒	ルポ	越中谷利一		
狂犬に噛まれる	ルポ	柳瀬正夢		
労働問題				
野田へ行く	ルポ	江口渙		
関西旅日記	ルポ	山田清三郎		
再敗した東京市電総罷業	ルポ	北川安夫		
日本最初の製糸大争議一岡谷争議の思出一	ルポ	平林たい子		
反動希望社一覧	ルポ	素川絹子		
浅野セメント争議六月三十日夜の素描	ルポ	今野賢三		
エトロフ丸漁雑夫虐殺事件	ルポ	熊谷正男		
至誠病院争議闘争記	ルポ	零不二子		
京都帝大付属病院看護婦騒動について	ルポ	零不二子		
輜重隊よ前へ	ルポ	徳永直		
工場に働く妹に与う	ルポ	加藤求		
大工場地帯を行く	ルポ	徳永直		
女工さんと職場で語る	ルポ	佐多稲子	窪川稲子	
託児所探訪記	ルポ	住野茂子		
どん底の女	ルポ	平林たい子		
足でかいた歳末風景	ルポ	平林彪吾		
一九三三年の春	ルポ	松田解子		
失業者密集地帯	ルポ	徳永直		
動く大工場地帯	ルポ	越中谷利一		
電車の見えない電車通り	ルポ	宮本百合子	中条百合子	
佐渡ヶ島	ルポ	江口渙		
一千の生霊を呑む史の硫化泥を行く	ルポ	松田解子		
尾去沢事件現地報告	ルポ	松田解子		
農・漁村問題				
岐阜暴動と農民	ルポ	立野信之		
木崎村の農民学校	ルポ	鹿地亘		

香川をあるく	ルポ	壺井繁治		
高知の漁民騒動	ルポ	古沢元		
騒擾の三日間	ルポ	土肥頼正		
農村の姿	ルポ	世田良平		
貧困児童	ルポ	高橋辰二		
暗澹たる農村を歩く	ルポ	里村欣三		
飛行機の下村	ルポ	宮本百合子	中条百合子	
農民の飢餓	ルポ	中野鈴子		
飢饉地を馳けめぐり同盟員と語る	ルポ	大宅壮一		
凶作地スケッチ踏査	ルポ	福田新生		
旗を守る	ルポ	木村清作		
選挙戦・白色テロとのたたかい その他				
北海道血戦記	ルポ	山本懸蔵		
南信血戦記	ルポ	藤森成吉		
山本宣治氏暗殺真相記	ルポ	江口渙		
青山斎場にて	ルポ	山田清三郎		
総検束の中に旗は進む	ルポ	中條辰夫		
奉天市街を歩く	ルポ	黒島伝治		
上海出征日記	ルポ	上條豊		
橋の上	ルポ	上田昌一		
連隊思想委員室	ルポ	水上尚		
陣頭にたおれたる小林の屍骸を受取る	ルポ	江口渙		
当局の妨害を怒る小林の母	ルポ	佐々木孝丸		
二月二十日のあと	ルポ	佐多稲子	窪川稲子	
曇り日の市ヶ谷	ルポ	壺井繁治		
解説	解説	今崎暁巳		
日本プロレタリア文学集・35：プロレタリア戯曲集（一）			新日本出版社	1988/05/30
和泉屋染物店	戯曲	木下杢太郎		
剃刀	戯曲	中村吉蔵		
緑の野	戯曲	秋田雨雀		
国境の夜	戯曲	秋田雨雀		
骸骨の舞跳	戯曲	秋田雨雀		
工場法	戯曲	平沢計七		
牢から出た男	戯曲	平沢計七		
同土打	戯曲	藤井真澄		
倉庫の強人	戯曲	藤井真澄		
食い違い	戯曲	長谷川如是閑		
木賃宿	戯曲	渡平民		
監獄部屋	戯曲	渡平民		
雪を踏んで	戯曲	佐野袈裟美		
脱営兵とその妻	戯曲	佐野袈裟美		
混乱の巷	戯曲	佐野袈裟美		
蘇らぬ朝	戯曲	武藤直治		
奈落	戯曲	小山内薫		

礫茂左衛門	戯曲	藤森成吉		
何が彼女をそうさせたか	戯曲	藤森成吉		
転轍手	戯曲	小堀甚二		
犠牲者	戯曲	久板栄二郎		
「戦闘は継続する！」	戯曲	久板栄二郎		
旗	戯曲	久板栄二郎		
盆踊り占領	戯曲	今野賢三		
請われ易い玩具	戯曲	木田開		
早鐘	戯曲	小野宮吉		
解説	解説	菅井幸雄		

日本プロレタリア文学集・36：プロレタリア戯曲集（二）			新日本出版社	1988/06/30
------------------------------------	--	--	---------------	-------------------

銃殺された林少尉	戯曲	長田秀雄		
ストライキ	戯曲	西光万吉		
冬の夜	戯曲	西光万吉		
山本巡查	戯曲	小林多喜二		
行方不明の工場長は？	戯曲	福田栄一		
機関室	戯曲	宮嶋資夫		
疵だらけのお秋	戯曲	三好十郎		
人よ、列へ！	戯曲	三好十郎		
群盗	戯曲	小島勲		
暴力団記	戯曲	村山知義		
東洋車輪工場	戯曲	村山知義		
志村夏江	戯曲	村山知義		
怪しい貨物船	戯曲	北村寿夫		
落した勲章	戯曲	清水真澄		
農期	戯曲	富田常雄		
筑波秘録	戯曲	佐々木孝丸		
解説	解説	菅井幸雄		

日本プロレタリア文学集・37：プロレタリア戯曲集（三）			新日本出版社	1988/07/30
------------------------------------	--	--	---------------	-------------------

プロ床	戯曲	島公靖		
青いユニフォーム	戯曲	島公靖		
売られる田地	戯曲	伊藤貞助		
爆発	戯曲	堺誠一郎		
プロレタリアートの途	戯曲	吉村浩太郎		
小作人	戯曲	立野信之		
ファッション人形	戯曲	久保栄		
五稜郭	戯曲	久保栄		
血書	戯曲	久保栄		
機関庫	戯曲	大沢幹夫		
あいつを倒せ	戯曲	中村栄二		
遺族	戯曲	牧本進		

逆立つレール	戯曲	戸川静子 佐々木孝丸 久保栄 藤田満雄		
解説	解説	菅井幸雄		
日本プロレタリア文学集・38：プロレタリア詩集（一）			新日本出版社	1987/05/25
はてしなき議論の後	詩	石川啄木		
ココアひと匙	詩	石川啄木		
激論	詩	石川啄木		
墓碑銘	詩	石川啄木		
飛行機	詩	石川啄木		
社会か監獄か	詩	大杉栄		
野獣	詩	大杉栄		
殺戮の殿堂	詩	白鳥省吾		
爛れた眼	詩	白鳥省吾		
峠	詩	白鳥省吾		
戦争の追懐	詩	白鳥省吾		
無政府主義者	詩	白鳥省吾		
海上の憂鬱	詩	白鳥省吾		
選炭の乙女	詩	白鳥省吾		
女工の唄える	詩	林芙美子		
苦しい唄	詩	林芙美子		
いとしのカチューシャ	詩	林芙美子		
朱帆は海へ出た	詩	林芙美子		
朝鮮の少女一	詩	佐多稲子	窪川稲子	
朝鮮の少女二	詩	佐多稲子	窪川稲子	
ピラ撒き	詩	佐多稲子	窪川稲子	
新年茶話会の夜	詩	佐多稲子	窪川稲子	
解説	解説	土井大助		
日本プロレタリア文学集・39：プロレタリア詩集（二）			新日本出版社	1987/06/30
五月の霜	詩	伊藤信吉		
燕二	詩	伊藤信吉		
嵐の中に	詩	伊藤信吉		
朝の歌	詩	伊藤信吉		
雪一	詩	伊藤信吉		
ぬか雨に濡れて	詩	伊藤信吉		
河	詩	伊藤信吉		
家系	詩	伊藤信吉		
夜風の中を	詩	伊藤信吉		
手紙に代えて	詩	伊藤信吉		
故郷 第三	詩	伊藤信吉		
組織された力	詩	今野大力		
百姓仁平	詩	今野大力		
私の母	詩	今野大力		

金属女工の彼女	詩	今野大力		
凍土を噛む	詩	今野大力		
屈辱ー市電の一労働者に代ってー	詩	今野大力		
奪われてなるものかー施療病院にてー	詩	今野大力		
ねむの花咲く家ー自らペンを取らなかった詩ー	詩	今野大力		
胸に手を当てて	詩	今野大力		
一疋の昆虫	詩	今野大力		
花に送られる	詩	今野大力		
手	詩	今村恒夫		
鋼鉄	詩	今村恒夫		
プチロフの工場	詩	今村恒夫		
死ぬる迄土地を守るのだ	詩	今村恒夫		
山上の歌	詩	今村恒夫		
アンチの闘士	詩	今村恒夫		
組合	詩	重政順平		
五月祭へ！	詩	重政順平		
工女の歌	詩	丹沢明		
千住大橋	詩	丹沢明		
故渡辺政之輔を悼む	詩	大谷圭三		
返事	詩	米田曠		
さあ、押し出だせー	詩	米田曠		
Ⅰ村の意志	詩	赤堀昌宏		
朝顔	詩	赤堀昌宏		
山村食料記録	詩	森佐一		
稲を刈る	詩	伊藤和		
高神村事件のときの詩	詩	伊藤和		
赤い煉瓦の建物の奥	詩	伊藤和		
大いにやるべし	詩	伊藤和		
逆流	詩	伊藤和		
この俺たちの腕がするのだ	詩	上野頼三郎		
村に落ちて居る詩	詩	上野頼三郎		
供給人夫	詩	柴山群平		
友達のこと	詩	神谷暢		
飢渴地帯	詩	小森盛		
保護職工	詩	森竹夫		
此れが最後の愚痴だ	詩	野長瀬正夫		
故郷 第三	詩	野長瀬正夫		
監房	詩	久野昭		
さらわれた兄よー残された妹の歌ー	詩	榎本楠郎		
おふくろへ	詩	榎本楠郎		
馬	詩	猪狩満直		
炭坑長屋物語	詩	猪狩満直		
チャチャはこう話して呉れた	詩	更科源蔵		
コタンの学校	詩	更科源蔵		

蚕の詩	詩	真壁仁		
祖母の詩	詩	真壁仁		
街の百姓	詩	真壁仁		
野良	詩	真壁仁		
馬鈴薯階級の詩	詩	中島葉那子		
叩き大工の詩	詩	葛西暢吉		
虹	詩	石井秀		
蜂	詩	石井秀		
女子軍の意気	詩	石井秀		
天の川へ響けるほど	詩	石井秀		
石を背負う娘たち	詩	石井秀		
製糸女工の唄	詩	山中兆子		
此処にも生れる彼等	詩	若杉香子		
氾濫	詩	若杉香子		
百万の中の母と子	詩	仙庭康		
戦車（タンク）	詩	宮城研一		
解説	解説	土井大助		
日本プロレタリア文学集・40：プロレタリア短歌・俳句川柳集			新日本出版社	1988/11/30
プロレタリア短歌				
〈細目省略〉				
プロレタリア俳句				
〈細目省略〉				
プロレタリア川柳				
〈細目省略〉				
解説	解説	碓田のぼる 谷山花猿 岡田一と		
日本プロレタリア文学集 別巻（プロレタリア文学資料集・年表）			新日本出版社	1988/12/20
プロレタリア文学資料集				
〈細目省略〉				
資料集を監修して	—	祖父江昭二		
プロレタリア文学年表	年表	浦西和彦		
日本プロレタリア文学評論集1：前期プロレタリア文学評論集			新日本出版社	1990/10/30
芸術か戦闘か	評論	荒畑寒村		
緑蔭の家	評論	荒畑寒村		
芸術的自覚	評論	平沢計七		
宮嶋君の「坑夫」	評論	西村陽吉		
民衆芸術の意義及び価値	評論	本間久雄		
農民小説の問題	評論	本間久雄		
君は貴族は平民か—本間久雄君に問う	評論	安成貞雄		
新しき世界の為めの新しき芸術	評論	大杉栄		
武者小路実篤氏と新しき村の事業	評論	大杉栄		
労働運動と労働文学	評論	大杉栄		
民衆は何処に在りや	評論	加藤一夫		

民衆芸術は何うして起らぬか	評論	加藤一夫		
彼女の真実—中條百合子氏を論ず	評論	伊藤野枝		
民主的文芸の本質と使命	評論	白鳥省吾		
藤森成吉君の芸術	評論	秋田雨雀		
新しき労働者の新しき読物	評論	藤井真澄		
新進プロレタリア作家及評論家	評論	藤井真澄		
第四階級の文学	評論	中野秀人		
文学の劫久性と現実—武者小路実篤を駁す	評論	前田河広一郎		
無産派の作家を論ず	評論	前田河広一郎		
民衆芸術の精神	評論	小川未明		
プロレタリアート芸術	評論	宮地嘉六		
本当の意味の創造を—宮地嘉六氏	評論	新井紀一		
労働文学の主張	評論	宮嶋資夫		
宣言一つ	評論	有島武郎		
第四階級の芸術—其の芽生と伸展を期す	評論	有島武郎		
長編小説「空に指して語る」(内藤辰雄著)	評論	山川亮		
小川未明論	評論	山川亮		
プロレタリアの文学	評論	吉田金重		
阿部次郎氏の人格主義を難ず	評論	竹内仁		
未来主義の方へ	評論	村松正俊		
文壇に於ける階級闘争の意義	評論	佐野袈裟美		
階級意識の芸術	評論	津田光造		
階級と文学との関係を論ず	評論	江口渙		
中西伊之助君の作品を通読して	評論	江口渙		
「決闘」を読んで	評論	今野賢三		
プロ文壇の新らしい闘士たち	評論	小牧近江		
労働者と文学	評論	細井和喜蔵		
通俗文芸の内容と表現	評論	細井和喜蔵		
唯物論とリアリズム	評論	武藤直治		
秋田雨雀論—現代作家論	評論	武藤直治		
文学運動の中心点	評論	山内房吉		
教化運動と文学運動—「文学運動の中心点」再論	評論	山内房吉		
無産階級文芸論(「総論」抄)	評論	藤森成吉		
「工場」を読む	評論	藤森成吉		
中間派の文学論—大槻憲二氏の「階級意識止揚論」を	評論	林房雄		
社会主義文芸運動	評論	林房雄		
無産階級文芸運動と政治闘争	評論	林房雄		
テーゼに関する誤解について—鹿地君に答える	評論	林房雄		
我国プロレタリア文学運動の発展	評論	太田慶太郎		
啄木に関する断片	評論	中野重治		
結晶しつつある小市民性—『文芸戦線』一九二七年二	評論	中野重治		
芸術に関する走り書覚え書	評論	中野重治		
芥川氏のことなど	評論	中野重治		
第二の発展期と『文芸戦線』—『文芸戦線』の陣容更	評論	山田清三郎		

分裂はどこからきたか	評論	山田清三郎		
共産主義党派文芸を評す	評論	新居格		
所謂社会主義文芸を克服せよ	評論	鹿地亘		
更に意識的折衷主義者を追撃する	評論	鹿地亘		
プロレタリア文芸運動の現段階と其任務ープロレタリ	評論	田口憲一		
プロレタリア文芸運動の方向転換は如何にして可能で	評論	田口憲一		
文芸運動とは何を為すことか？	評論	久板栄二郎		
芸術至上主義と「政治闘争主義」との機械的結合ー良	評論	佐々木孝丸		
芸術理論は何処へ往くか！ープロ芸への批判	評論	本荘可宗		
前衛芸術家同盟及び日本プロレタリア芸術連盟に与う	評論	門屋博		
無産階級芸術戦線の統一へ！	評論	壺井繁治		
政治と芸術の問題その他ー無産派文芸家討論会を中心	評論	壺井繁治		
解説	解説	祖父江昭二		

日本プロレタリア文学評論集2：片上 伸集			新日本出版社	1990/6/30
-----------------------------	--	--	---------------	------------------

思想の勝利	評論	片上伸		
人間に還れ	評論	片上伸		
世界の不安	評論	片上伸		
文芸の社会的問題	評論	片上伸		
文芸家と社会問題	評論	片上伸		
中間階級の文学	評論	片上伸		
生かす批評	評論	片上伸		
今の批評	評論	片上伸		
一転歩	評論	片上伸		
階級芸術の問題	評論	片上伸		
有島武郎氏の態度	評論	片上伸		
批評的精神の問題	評論	片上伸		
「否定」の文学	評論	片上伸		
平凡人の反抗	評論	片上伸		
震災火災と文学	評論	片上伸		
現代日本文学の問題	評論	片上伸		
現実観の成長	評論	片上伸		
内在批評以上のもの	評論	片上伸		
批評と闘志	評論	片上伸		
無産階級文学の諸問題	評論	片上伸		
革命後のサヴェート文壇	評論	片上伸		
批評の評論ー無産階級の文学批評について	評論	片上伸		
文学の読者の問題	評論	片上伸		
文芸の社会的機能	評論	片上伸		
文学批評の転機	評論	片上伸		
文学の方法論上二三の要点に就いての考察	評論	片上伸		
現実観の動揺	評論	片上伸		
文壇の反動思潮	評論	片上伸		
評論壇近事	評論	片上伸		
現実の内容	評論	片上伸		

批評の時代	評論	片上伸		
文芸講話	評論	片上伸		
無産派の二つの小説	評論	片上伸		
類型の文学について	評論	片上伸		
文芸評論	評論	片上伸		
(一 文学運動の過程について他	評論	片上伸		
二 反抗暴露の文学他	評論	片上伸		
三 小説の筋他	評論	片上伸		
四 通俗小説の過去現在及び将来他	評論	片上伸		
五 文芸批評の権威他	評論	片上伸		
六 通俗小説の心境小説の弁他	評論	片上伸		
七 プロレタリア文学に就いて	評論	片上伸		
八 再びプロレタリア文学について)	評論	片上伸		
政治と文芸—青野君の所説に関連して	評論	片上伸		
日本プロレタリア文学の三四の作品	評論	片上伸		
小島勗君の『遙かなる眺望』に於ける表現主義	評論	片上伸		
宮本顕治宛書簡	評論	片上伸		
解説	解説	津田孝		
日本プロレタリア文学評論集3：平林初之輔、青野季吉 集			新日本出版社	1990/8/25
「胎児」と「幼なき者」（「九月の創作」抄）	評論	平林初之輔		
時事偶感	評論	平林初之輔		
文学と社会主義と—永遠性は後者にもある	評論	平林初之輔		
民衆芸術の理論と実際	評論	平林初之輔		
唯物史観と文学	評論	平林初之輔		
第四階級の文学	評論	平林初之輔		
行動の理想主義	評論	平林初之輔		
文芸運動と労働運動	評論	平林初之輔		
中西氏に答う	評論	平林初之輔		
文壇左傾派の作品	評論	平林初之輔		
尾崎氏に答える	評論	平林初之輔		
前田河広一郎氏『赤い馬車』を読む	評論	平林初之輔		
有島武郎氏の死について	評論	平林初之輔		
アナトール・フランス私見	評論	平林初之輔		
片上氏の『文学評論』	評論	平林初之輔		
文学の本質について	評論	平林初之輔		
無産文芸三派の批判	評論	平林初之輔		
文学及び芸術の技術的革新	評論	平林初之輔		
プロレタリア文学運動の理論的及び実践的展開の過程	評論	平林初之輔		
文芸時評	評論	平林初之輔		
党人と自由人と	評論	平林初之輔		
即興的小説を排す	評論	平林初之輔		
政治的価値と芸術的価値—マルクス主義文学理論の再吟味	評論	平林初之輔		
日本のシンクレアー—小林君の「蟹工船」	評論	平林初之輔		
諸家の芸術価値理論の批判	評論	平林初之輔		

芸術論に於ける未解決の根本的諸問題 ――何故僕は懷疑論者のように見えるか	評論	平林初之輔		
プロ文学に於ける似而非プロレタリア性	評論	平林初之輔		
心霊の滅亡	評論	青野季吉		
文芸運動と労働階級	評論	青野季吉		
階級闘争と芸術運動	評論	青野季吉		
芸術の革命と革命の芸術	評論	青野季吉		
解放戦と芸術運動	評論	青野季吉		
『文芸戦線』以前―「種蒔き社」解散前後	評論	青野季吉		
芸術で無い芸術	評論	青野季吉		
「調べた」芸術	評論	青野季吉		
文芸批評の一発展型	評論	青野季吉		
現代文学の十大欠陥	評論	青野季吉		
自然生長と目的意識	評論	青野季吉		
正宗氏の批評に答え所懐を述ぶ	評論	青野季吉		
マルクス主義文芸観について	評論	青野季吉		
芥川龍之介の死に関連して	評論	青野季吉		
外在的批評への一奇与	評論	青野季吉		
プロレタリア作家論	評論	青野季吉		
政治と文芸について	評論	青野季吉		
現代文学者の階級的性質	評論	青野季吉		
芸術運動上の宗派的分裂主義の諸相	評論	青野季吉		
片上伸論	評論	青野季吉		
政治的価値と芸術的価値の問題	評論	青野季吉		
谷川氏のマルクス主義文学理論の批判の批判	評論	青野季吉		
生活分解の文学と生活組織の文学	評論	青野季吉		
平林初之輔論	評論	青野季吉		
「夜明け前」論―（第一部）を論ず	評論	青野季吉		
左翼文芸の確立に関するテーゼ（草案）	評論	青野季吉		
「風雨強かるべし」を読む	評論	青野季吉		
解説	解説	祖父江昭二		

日本プロレタリア文学評論集4：蔵原惟人集			新日本出版社	1990/7/30
詩人セルゲイ・エセーニンの死	評論	蔵原惟人		
最近のロシア文学	評論	蔵原惟人		
現代ロシアの批評文学	評論	蔵原惟人		
現代日本文学と無産階級	評論	蔵原惟人		
政党と文学―新居格氏の無政府主義文芸論を駁す―	評論	蔵原惟人		
文芸論上のアナーキズムとマルキシズム	評論	蔵原惟人		
いわゆるプロレタリア文芸運動の「混乱」について	評論	蔵原惟人		
マルクス主義文芸批評の基準	評論	蔵原惟人		
無産階級芸術運動の新段階 ――芸術の大衆化と全左翼芸術家の統一戦線へ	評論	蔵原惟人		
一九二八年一月のプロレタリア文学	評論	蔵原惟人		
左翼文芸家の総連合へ	評論	蔵原惟人		

生活組織としての芸術と無産階級	評論	葦原惟人		
プロレタリア・リアリズムへの道	評論	葦原惟人		
最近のプロレタリア文学界	評論	葦原惟人		
芸術運動当面の緊急問題	評論	葦原惟人		
芸術運動における「左翼」生産主義――再びプロレタリア 芸術運動に対する中野・鹿地両君の所論について	評論	葦原惟人		
理論的な三、四の問題	評論	葦原惟人		
プロレタリア文芸の画期的作品 ――小林多喜二の「一九二八年三月十五日」	評論	葦原惟人		
最近のプロレタリア文学と新作家	評論	葦原惟人		
プロレタリア芸術の内容と形式	評論	葦原惟人		
明日の文壇を観る	評論	葦原惟人		
作品と批評	評論	葦原惟人		
再びプロレタリア・リアリズムについて	評論	葦原惟人		
マルクス主義文芸批評の旗の下に――芸術作品の評価について――	評論	葦原惟人		
プロレタリア文学のために	評論	葦原惟人		
プロレタリア文芸批評界の展望	評論	葦原惟人		
新芸術形式の探求へ――プロレタリア芸術当面の問題について――	評論	葦原惟人		
注目される四作品――文芸的感想――	評論	葦原惟人		
一九二九年の日本文学	評論	葦原惟人		
帝国主義と芸術	評論	葦原惟人		
「ナップ」芸術家の新しい任務――共産主義芸術の確立へ――	評論	葦原惟人		
現代文学に関する覚え書き	評論	葦原惟人		
芸術大衆化の問題	評論	葦原惟人		
プロレタリア芸術運動の組織問題 ――工場・農村を基礎としてその再組織の必要――	評論	葦原惟人		
芸術運動の組織問題再論	評論	葦原惟人		
芸術的方法についての感想（前編）	評論	葦原惟人		
芸術的方法についての感想（後編）	評論	葦原惟人		
芸術理論におけるレーニン主義のための闘争――忽卒な覚え書き――	評論	葦原惟人		
芸術運動における組織問題のより高い発展のために ――同志勝本清一郎の所論を駁しつつ――	評論	葦原惟人		
芸術書簡	評論	葦原惟人		
解説	解説	小林茂夫		
日本プロレタリア文学評論集5：宮本顕治集			新日本出版社	1990/9/30
「敗北」の文学――芥川龍之介氏の文学について	評論	宮本顕治		
過渡時代の道標――片上伸論	評論	宮本顕治		
昭和五年の文壇の素描――覚え書風な回顧と展望	評論	宮本顕治		
評価の科学性について	評論	宮本顕治		
同伴者作家	評論	宮本顕治		
文芸時評（一）	評論	宮本顕治		
文芸時評（二）	評論	宮本顕治		
ブルジョア作家批判のために――「ブルジョア作家論」の序	評論	宮本顕治		
文芸時評（三）	評論	宮本顕治		
文芸時評（四）	評論	宮本顕治		

ブルジョア大衆文学の意図	評論	宮本顕治		
阿部知二論	評論	宮本顕治		
職場の詩人	評論	宮本顕治		
文芸時評（五）	評論	宮本顕治		
小林秀雄論	評論	宮本顕治		
プロ文学の立ちおくれ	評論	宮本顕治		
文学批評の基準	評論	宮本顕治		
プロレタリア文学における立ち遅れと退却の克服へ	評論	宮本顕治		
政治と芸術・政治の優位性に関する問題	評論	宮本顕治		
文化サークル活動への懐疑的清算主義的傾向に対して	評論	宮本顕治		
文化・芸術運動の基本的方向の歪曲に対して ――基本的に「二つの道」「中間の道」はない	評論	宮本顕治		
あとがき（『宮本顕治文芸評論選集』第一巻）	解説	宮本顕治		
日本プロレタリア文学評論集6：宮本顕治集			新日本出版社	1990/9/30
『文芸戦線』はどこに門を開くか―その「正統左翼主義」とは何か	評論	中野重治		
いわゆる芸術の大衆文化論の誤りについて	評論	中野重治		
問題の捩じもどしとそれについての意見	評論	中野重治		
解決された問題と新しい仕事	評論	中野重治		
芸術に政治的価値なんてものはない ――「政治的価値と芸術的価値」とか「文芸批評の座標」とか「批評の基準」とかいうものについて	評論	中野重治		
プロレタリア芸術とは何か	評論	中野重治		
イデオロギー的批評を望む	評論	中野重治		
小市民性の跳梁に抗して	評論	鹿地亘		
文学運動方向転換の根本的理解のために―ナルプ拡大中央委員会への報告	評論	鹿地亘		
林房雄君に一言	評論	壺井繁治		
文学新聞に対する批判	評論	壺井繁治		
政治と文学についての感想―文芸時評	評論	壺井繁治		
黒島伝治小論	評論	池田寿夫		
農民とプロレタリア文学	評論	池田寿夫		
過去の反戦文学の批判と今後の方向	評論	池田寿夫		
理論家としての同志小林多喜二	評論	池田寿夫		
葉山嘉樹論	評論	高見順		
我国に於ける尖端芸術運動に関する一考察 ――一九二五年に於ける我国プロレタリア芸術の岐路と進展方向に就いて	評論	高見順		
最近の腹臆	評論	高見順		
芸術派の反動性―その社会的反動性は勿論であるが、それに規定されての文学的内面活動に於いての反動性に就いて	評論	高見順		
プロレタリア大衆文学の問題	評論	林房雄		
作家のために―作家の資格と任務と権利と	評論	林房雄		
戦線統一から具体的な活動へ―一九二九年に於ける我々の任務	評論	山田清三郎		
文芸団体の活動方針	評論	山田清三郎		

プロレタリア芸術運動理論	評論	山田清三郎		
プロレタリア文学と読者の問題	評論	山田清三郎		
形式主義文学説を排す	評論	勝本清一郎		
「蟹工船」の勝利	評論	勝本清一郎		
史的芸術科学の樹立へ	評論	勝本清一郎		
ベルリンからの緊急討論（その一）	評論	勝本清一郎		
作品に於ける左翼社会民主主義の暴露—昭和四年一月号新潮所載—平林たい子作	評論	窪川鶴次郎		
文芸戦線の最近の傾向と分裂・乱闘事件の階級的意義	評論	窪川鶴次郎		
ブルジョア文学の新たな段階に面して	評論	窪川鶴次郎		
マルクス主義文芸の自殺か暗殺か—平林初之輔氏の	評論	大宅壮一		
文芸批評の座標について—文学的戦術論の一部として	評論	大宅壮一		
平林初之輔氏の所論その他	評論	川口浩		
報告文学論	評論	川口浩		
否定的リアリズムについて—プロレタリア文学の—方向	評論	川口浩		
プロレタリア芸術運動理論—労働芸術家連盟の立場から	評論	小堀甚二		
反戦文学論	評論	黒島伝治		
解説	解説	佐藤静夫		
新・プロレタリア文学精選集（全20巻）		浦西和彦監修	ゆまに書房	2004/06
第1巻 一青年の手記	—	荒川義英		
第2巻 仏陀と幼児の死	—	秋田雨雀		
第3巻 地獄の出来事	—	井東憲		
第4巻 大暴風雨時代	—	前田河広一郎		
第5巻 村に襲ふ波	—	加藤一夫		
第6巻 武左衛門一揆	—	中西伊之助		
第7巻 赤旗の靡くところ	—	田口運蔵		
第8巻 賃銀奴隷宣言	—	岩藤雪夫		
第9巻 都会双曲線	—	林房雄		
第10巻 阿片戦争	—	江馬修		
第11巻 慶安太平記後日譚	—	落合三郎		
第12巻 部落と金解禁	—	金子洋文		
第13巻 失業者の歌	—	明石鉄也		
第14巻 同志愛	—	貴司山治		
第15巻 女工戦	—	今野賢三		
第16巻 勝利の記録	—	村山知義		
第17巻 戯曲資本論	—	阪本勝		
第18巻 何処へ行く？	—	徳永直		
第19巻 争ふ二つのもの	—	藤森成吉		
第20巻 囚はれた大地	—	平田小六		
風呂で読める文庫100選 80：日本プロレタリア文学選			フロンティア文庫	2005/04/01
渦巻ける烏の群	小説	黒島伝治		
苦力頭の表情	小説	里村欣三		
獄中記	小説	大杉栄		
今度こそ	小説	片岡鉄兵		
十姉妹	小説	山本勝治		

女給	小説	細井和喜蔵		
組合旗を折る	小説	永崎貢		
アンソロジー・プロレタリア文学1 貧困：飢える人びと		糊沢健	森話社	2013/09/24
[短歌]	短歌	渡辺順三		
龍介と乞食	小説	小林多喜二		
ある職工の手記	小説	宮地嘉六		
風琴と魚の町	小説	林芙美子		
[川柳]	川柳	鶴彬		
電報	小説	黒島伝治		
濁り酒	小説	伊藤永之介		
貧しき人々の群	小説	宮本百合子	中条百合子	
[俳句]	俳句	栗林一石路		
[俳句]	俳句	橋本夢道		
棄てる金	小説	若杉鳥子		
佐渡の唄	小説	里村欣三		
移動する村落	小説	葉山嘉樹		
アンソロジー・プロレタリア文学2 蜂起：集団のエネルギー		糊沢健	森話社	2014/04/21
製糸女工の唄 信州岡谷にて	詩	山中兆子		
地獄	小説	金子洋文		
[川柳]	川柳	白石維想楼		
女店員とストライキ	小説	佐多稲子	窪川稲子	
[川柳]	川柳	山村比呂志		
豚群	小説	黒島伝治		
女工小唄①（『女工哀史』附録）	歌詞	細井和喜蔵蒐集 信時潔採譜		
淫売婦	小説	葉山嘉樹		
[川柳]	川柳	井上剣花坊		
省電車掌	小説	黒江勇		
[短歌]	短歌	清水信		
舗道	小説	宮本百合子	中条百合子	
女工小唄②	歌詞	細井和喜蔵蒐集 信時潔採譜		
交番前	小説	中野重治		
[川柳]	川柳	鶴彬		
鎖工場	小説	大杉栄		
[短歌]	短歌	渡辺順三		
防雪林	小説	小林多喜二		
女工小唄③	歌詞	細井和喜蔵蒐集 信時潔採譜		
アンソロジー・プロレタリア文学3 戦争：逆らう皇軍兵士		糊沢健	森話社	2015/05/29
[川柳]	川柳	鶴彬		
[川柳]	川柳	井上剣花坊		
櫓	小説	黒島伝治		
豪雨	小説	立野信之		

怒れる高村軍曹	小説	新井紀一		
殺戮の殿堂	詩	白鳥省吾		
[川柳]	川柳	森田一二		
鉄兜	小説	中村光夫		
俘虜	小説	金子洋文		
三月の第四日曜	小説	宮本百合子	中条百合子	
入営する弟に	詩	中山フミ		
[川柳]	川柳	中島国夫		
軍人と文学	評論	中野重治		
二人の中尉	小説	平沢計七		
宣伝（四幕）	戯曲	高田保		
勲章	詩	宮木喜久雄		
[川柳]	川柳	井上信子		
煤煙の臭い	小説	宮地嘉六		
麵麩	シナリオ	島影盟		
野ばら	小説	小川未明		
アンソロジー・プロレタリア文学4 事件：闇の奥へ		糊沢健	森話社	2017/08/18
雨の降る品川駅	詩	中野重治		
転機	小説	伊藤野枝		
砂糖より甘い煙草	小説	小川未明		
[川柳]	川柳	井上信子		
十五円五十銭――震災追想記	随筆	壺井繁治		
奇蹟	小説	江馬修		
骸骨の舞跳	戯曲	秋田雨雀		
間島パルチザンの歌	詩	槇村浩		
不逞鮮人	小説	中西伊之助		
新聞配達夫	小説	楊達		
平地蕃人	小説	伊藤永之介		
済南	小説	黒島伝治		
伏字	詩	坂井徳三		
江戸川乱歩	随筆	平林初之輔		
労働者ジョウ・オ・ブラインの死	小説	前田河広一郎		
六万円拐帯事件	合作	橋本英吉 窪川いね子 土師清二		
アンソロジー・プロレタリア文学5 脅威：出会いと偶然		糊沢健	森話社	2022/06/10
野獣	詩	大杉栄		
空中の芸当	小説	小川未明		
琉球の武器	随筆	藤沢桓夫		
綱渡りの現実	詩	小熊秀雄		
[川柳]	川柳	近藤十四子		
セメント樽の中の手紙	小説	葉山嘉樹		
誰かに宛てた記録	小説	小林多喜二		
便所闘争	小説	府川流一		

テガミ	小説	小林多喜二		
わかもの	小説	中野重治		
[川柳・コマ絵]	川柳 絵	竹久夢二		
[「ラッパ節」替え歌の変遷]	演歌	添田啞蟬坊ほか		
[四季の歌(第二次)・鐘ヶ淵紡績女工の歌]	演歌	添田啞蟬坊ほか		
[演歌集]	演歌	添田啞蟬坊		
工場閉鎖	合作	「文戦」責任創作	鶴田知也 青木壮一郎 里村欣三	
[川柳・コマ絵]	川柳 絵	竹久夢二		
雪のシベリア	小説	黒島伝治		
緑の野	戯曲	秋田雨雀		
「舌」の叛逆としてのエスペラント	評論	秋田雨雀		
医者とエスペラント	評論	伊東三郎		
[川柳]	川柳	戸川幽子		
十三人	小説	田中忠一郎		
地下鉄(「青服」前篇・後篇)	小説	貴司山治		
教科書で読む名作：セメント樽の中の手紙ほか プロレタリア文学			ちくま文庫	2017/03/10
セメント樽の中の手紙	小説	葉山嘉樹		
二銭銅貨	小説	黒島伝治		
キャラメル工場から	小説	佐多稲子	窪川稲子	
蟹工船	小説	小林多喜二		
菊の花	小説	中野重治		
歌声よ、おこれ	評論	宮本百合子	中条百合子	
作者について	解説	嶋田直哉		
プロレタリア文学論	解説	芥川龍之介		
中野重治『愛しき者へ』を読む	解説	鶴見俊輔 松尾尊兌		
「蟹工船」の元となった「博愛丸事件」を伝える新聞記事	付録	—		
小林多喜二「蟹工船」草稿ノート(部分)	付録	—		